

高知県埋蔵文化財センター年報

第12号

2002年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター

# 高知県埋蔵文化財センター年報

第12号

2002年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター

## 序

平成14年度は、埋蔵文化財センター新館落成記念の諸事業も終了し、年度当初から新館での本格的始動の年となりました。埋蔵文化財センターの本館展示室においては、高知国体の開催に伴い企画展『土佐の先史文化交流』が開催されました。また、新収蔵庫では、仮収蔵庫に保管していた膨大な量の遺物引越しも終了し、整然と遺物が保管されています。今後この保管されている多くの遺物を、どのような活用方法で県民の皆様に還元できるかを検討いたしております。

埋蔵文化財センター事業の中核となる受託事業は、本調査が6件と試掘調査が7件、整理作業が15件の総計28件でした。本調査が13年度は14件でしたので約58%の減となり、昨年度から急激に本調査の受託が少なくなってきました。整理作業は13年度が8件でしたので、約2倍に増加しておりセンター受託事業は発掘調査から整理作業や報告書作成作業に中心が移っている状況です。さらに試掘確認調査も受託で行っており、今年度は7件を実施していますが本調査となった遺跡は少ないです。市町村の職員派遣事業は、整理作業や報告書作成指導のみで昨年同様2件でした。埋蔵文化財センターが受託した調査面積と、市町村の調査面積を平成13年度と比較してみますと、受託調査面積が52%の減で市町村調査面積も60%の減です。昨今の景気不況に伴う影響を受けている数字が確認できます。埋蔵文化財センターは、発掘調査や資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護の普及啓発も大きな事業内容の柱となっております。その普及啓発として平成11年度から実施している出前考古学教室も4年目が終了し、現在まで91の小学校で出前授業を行っております。子どもたちからは、火起こし体験が人気でその他の古代体験もしてみたいと感想文をたくさん頂きました。今後埋蔵文化財センターと小学校の連携の中で、子どもたちに古代体験も含めた歴史教育を行う新たな事業も望まれるところです。

本調査の件数は少ないですが、発掘調査では多くの成果があがっています。春野町の西分増井遺跡では、過去2回の調査を含めて41棟の竪穴住居が検出されました。南四国の弥生集落の展開を理解するうえで、重要な資料を提供することができました。日高村の千本杉遺跡では、古代から中世の建物跡を推定できる柱穴や、中世前期を中心とする全国流通品の遺物が出土しており、隣接する土佐二ノ宮である小村神社造営との関連が想定できるようです。土佐市の京間遺跡では中近世の集落跡、野田遺跡では中世屋敷跡や高岡郡で初めての古代寺院跡が検出されています。このように、今年も発掘調査では多くの成果を挙げることができ、地域の歴史を見つめなおす資料の発見が相次いでいます。今後高知東部自動車道に伴う発掘調査や高知城跡の史跡整備に伴う発掘調査などの計画もあります。埋蔵文化財センターでは、今後保存管理している出土遺物の有効な活用、企画展や出前考古学教室などソフト面も含め充実した施設となるよう更なる努力につとめる所存です。今後とも皆様のご理解とご協力並びにご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年6月30日

財団法人高知県文化財団  
埋蔵文化財センター  
所長 島内 靖

## 例言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成14(2002)年度事業の概要をまとめたものである。
2. 発掘調査については、当センターの受託事業、派遣事業以外にも県教育委員会及び市町村教育委員会で実施されたものについても県下の状況を把握するために収録した。
3. IVの発掘調査の概要報告については各担当者が執筆した。その他の執筆・編集については松田直則・今田充が行った。なお、資料の整理に当たっては調査第5班職員の協力を得た。

## 本文目次

序

I 財団法人高知県文化財団 .....	1
1. 財団法人高知県文化財団の概要	
2. 財団法人高知県文化財団の組織	
II 埋蔵文化財センター .....	3
1. 埋蔵文化財センターの概要	
2. 埋蔵文化財センターの組織	
III 年間事業の概要 .....	5
1. 発掘調査事業	
2. 発掘調査報告書刊行・資料管理事業	
3. 普及啓発事業	
4. 研修事業他	
5. 埋蔵文化財センター施設	
IV 各遺跡の発掘調査概要 .....	32
V 条例・規則・規程等 .....	39
1. 高知県条例・規則	
2. 財団法人高知県文化財団規程	

## 表・図・写真目次

..... 表 .....	一覽表.....	10
表1 高知県文化財団役員一覽表.....	表7 平成14年度県・市町村教育委員会発掘調査(試掘確認調査)一覽表 1 .....	11
表2 埋蔵文化財センター職員一覽表.....	表8 平成14年度県・市町村教育委員会発掘調査(試掘確認調査)一覽表2 .....	12
表3 平成14年度受託事業発掘調査(本調査)一覽表.....	表9 平成3～14年度の県内の発掘調査件数と調査面積一覽.....	13
表4 平成14年度受託事業発掘調査(試掘調査)一覽表.....	表10 平成14年度派遣事業.....	14
表5 平成14年度県・市町村教育委員会発掘調査(本調査)一覽表.....	表11 平成14年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覽.....	15
表6 平成14年度受託発掘調査事業(整理作業)	表12 平成14年度市町村刊行報告書一覽.....	16

表13	平成14年度遺物貸出一覧.....16	図6	調査面積と調査件数変動グラフ.....13
表14	平成11年度出前考古学教室実績.....21	図7	高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800) .....30
表15	平成12年度出前考古学教室実績.....23	図8	高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F 平面図(S=1/800) .....30
表16	平成13年度出前考古学教室実績.....24		
表17	平成14年度出前考古学教室実績.....25		
表18	平成14年度講演会・研修会講師派遣...26		
表19	平成14年度発掘調査研修日程表.....27		
表20	平成14年度市町村埋蔵文化財担当職員研 修.....27		
表21	平成14年度職員専門研修.....27		
表22	平成14年度職員情報交換会.....28		
表23	平成14年度独立行政法人奈良文化財研究 所埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘技 術者専門研修.....28		
表24	平成14年度会議参加一覧表.....28		
表25	平成14年度見学者受け入れ1 .....28		
表26	平成14年度見学者受け入れ2 .....29		
表27	本館施設面積.....31		
表28	収蔵庫各層面積.....31		
表29	南館施設面積.....31		
表30	北館施設面積.....31		
表31	高知県文化財団組織表.....41		
表32	高知県文化財団職務分掌表.....42		

写真

写真1	企画展全体展示風景.....18
写真2	弥生土器展示.....18
写真3	企画展記念講演会.....18
写真4	居徳遺跡展示1 .....19
写真5	居徳遺跡展示2 .....19
写真6	出前考古学教室展示説明.....20
写真7	出前考古学教室火起こし.....21
写真8	西分増井遺跡竪穴住居跡.....32
写真9	野田遺跡遺物出土状況.....33
写真10	京間遺跡全景.....34
写真11	不破遺跡全景.....35
写真12	千本杉遺跡空中写真.....36
写真13	高知城跡空中写真.....37
写真14	高知城跡石垣解体後全景.....38
写真15	高知城跡石垣解体風景.....38

挿図

図1	高知県文化財団組織図..... 2
図2	埋蔵文化財センター組織図..... 3
図3	平成14年度受託事業発掘調査(本調査)位 置図(番号は受託事業発掘調査(本調査) 一覧表の番号と一致) ..... 5
図4	平成14年度受託事業発掘調査(試掘調査) 位置図(番号は受託事業発掘調査(試掘調 査)一覧表の番号と一致) ..... 7
図5	平成14年度県・市町村教育委員会発掘調 査位置図(番号は県・市町村教育委員会発掘 調査事業一覧表の番号と一致) ..... 9

# I 財団法人高知県文化財団

## 1. 財団法人高知県文化財団の概要

### (1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは、歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといふ県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代の趨勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならぬが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことが何よりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して、総合的・体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を活かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

### (2) 事業内容

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- ② 教育、学術及び文化の国際交流事業
- ③ 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- ④ 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ⑤ その他文化振興に関する事業

### (3) 設立年月日

平成2年3月28日

### (4) 事務局所在地

高知県高知市高須353-2

高知県立美術館内

## 2. 財団法人高知県文化財団の組織

### (1) 財団組織

#### ① 理事会役員

理事長1名 副理事長2名 専務理事1名 理事8名 監事3名

#### ② 事務局

総務部長(専務理事) - 総務課長(美術館副館長) - 事務職員

① 財団組織図

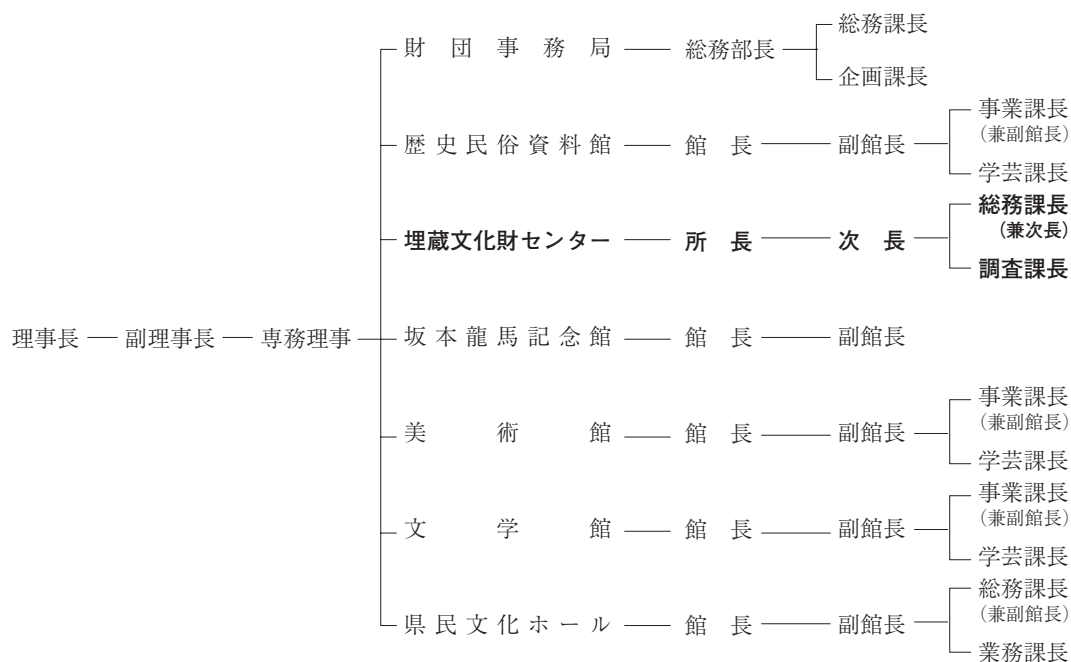


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団役員一覧表

役職名	氏名	備考
理事長	橋本 大二郎	高知県知事
副理事長	濱田 耕一	四国銀行会長
副理事長	尾崎 祐正	高知県文化環境部長
専務理事	高橋 淳一	高知県参事
理事	松尾 徹人	高知県市長会会長
理事	奥田 孝次郎	高知県町村会会長
理事	岩井 寿夫	高知新聞社社長
理事	竹村 維早夫	高知商工会議所副会頭
理事	岡内 紀雄	高知銀行頭取
理事	大崎 博澄	高知県教育長
理事	池田 憲治	高知県総務部長
理事	近藤 美佐	高知地方裁判所司法委員
監事	島本 博子	高知市収入役
監事	竹崎 敏夫	四国銀行公務・支店部長
監事	溝渕 良一	高知県副出納長



## II 埋蔵文化財センター

### 1. 埋蔵文化財センターの概要

#### (1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

#### (2) 事業内容

##### ① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

##### ② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

##### ③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

##### ④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

##### ⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

#### (3) 設立年月日

平成3年4月1日

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原南泉1437-1

### 2. 埋蔵文化財センターの組織

#### (1) 埋蔵文化財センターの組織図

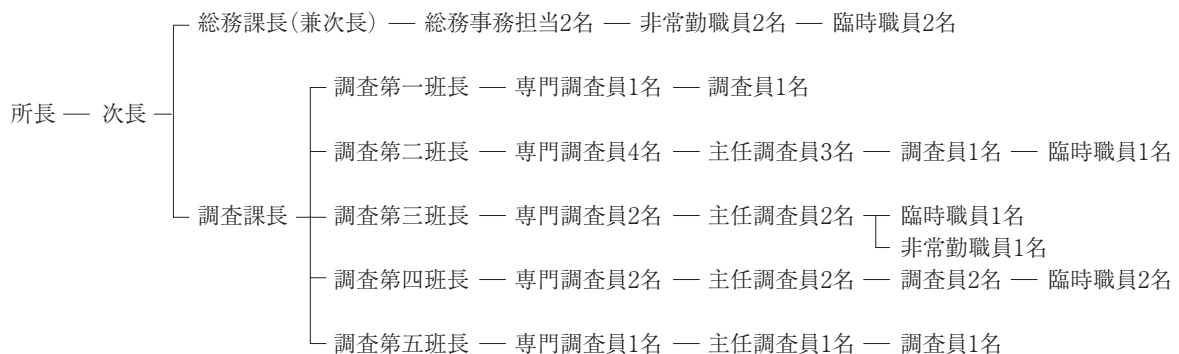


図2 埋蔵文化財センター組織図

表2 埋蔵文化財センター職員一覧表

職 名	氏 名	所 属		
所 長	島 内 靖	高知県教育委員会参事		
次長兼総務課長	久 川 清 利	高知県教育委員会文化財課		
総務担当	主 幹	中 城 英 人	〃	
	主 幹	金 子 晃 子	〃	
	非 常 勤 職 員	浅 井 慎 介	高知県文化財団	
	非 常 勤 職 員	榊 琴 美	〃	
	臨 時 職 員	丸 岡 宣 子	〃	
	臨 時 職 員	小 松 冨 冨	〃	
調査課長	重 森 勝 彦	高知県教育委員会文化財課		
調 査 担 当	調査第一班	調査第一班長	山 本 哲 也	〃
		専 門 調 査 員	岩 本 繁 樹	〃
		調 査 員	筒 井 三 菜	高知県文化財団
	調査第二班	調査第二班長	前 田 光 雄	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	名 木 郁	〃
		〃	小 島 恵 子	〃
		〃	浜 田 恵 子	〃
		〃	松 村 信 博	〃
		主任調査員	山 田 和 吉	〃
		〃	坂 本 憲 昭	高知県文化財団
		〃	吉 成 承 三	〃
		調 査 員	小 野 由 香	〃
		臨 時 職 員	三 谷 実 岐	〃
	調査第三班	調査第三班長	出 原 恵 三	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	小 嶋 博 満	〃
		〃	佐 竹 寛	〃
		主任調査員	藤 方 正 治	高知県文化財団
		〃	曾 我 貴 行	〃
		非 常 勤 職 員	山 本 純 代	高知県文化財団
		臨 時 職 員	宮 地 由 佳	〃
	調査第四班	〃	中 山 由 理	高知県文化財団
		調査第四班長	廣 田 佳 久	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	中 山 真 司	〃
		〃	田 中 耕 輔	〃
		主任調査員	堅 田 至	〃
		〃	籠 尾 泰 輔	〃
		調 査 員	田 中 涼 子	高知県文化財団
		〃	下 村 裕	〃
		臨 時 職 員	有 賀 公 乃	〃
		〃	馬 場 洋 子	〃
	調査第五班	〃	西 田 佐 知 子	〃
		〃	松 井 紀 子	〃
		調査第五班長	松 田 直 則	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	大 野 佳 代 子	〃
	調査第五班	主任調査員	今 田 充	〃
		調 査 員	久 家 隆 芳	高知県文化財団

### Ⅲ 年間事業の概要

#### 1. 発掘調査事業

平成14年度は、高知県の中でも大規模調査である高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群や高速道路関連の居徳遺跡群の整理作業が山場を迎え、国土交通省関連の土佐市や中村市での調査と県関係が主体を占め、全体的に試掘調査や発掘調査の件数も少なくなっている現状である。

埋蔵文化財センターの体制は、総務課と調査課(5班)で構成され職員数は所長ほか32名の職員で前年度に比べると4名減のスタートとなった。職員の内訳は、知事部局から5名(所長・次長兼総務課長・総務課職員2名・調査課長)、県教育委員会事務局から5名、教員から14名が派遣され、財団採用職員が9名であった。調査課の業務分担は主に、1班が出土遺物の保管と管理、2班が高知空港拡張整備事業関連の田村遺跡群、3班が河川改修・道路の県関連事業、4班が旧建設省(現国土交通省)の土佐市バイパスと中村宿毛道路関連、5班が県関連の事業をそれぞれ担当し、2班が担当する田村遺跡群と3班が担当する居徳遺跡群は整理作業が中心となった。本発掘調査を実施した受託事業は、件数では6件、面積は9,950㎡となり、前年度(19,737㎡)と比較減によるもので土佐市バイパス関連が2件(野田遺跡、京間遺跡)、中村宿毛道路関連が1件(不破遺跡)で調査の対象となる総面積の約59%を占め

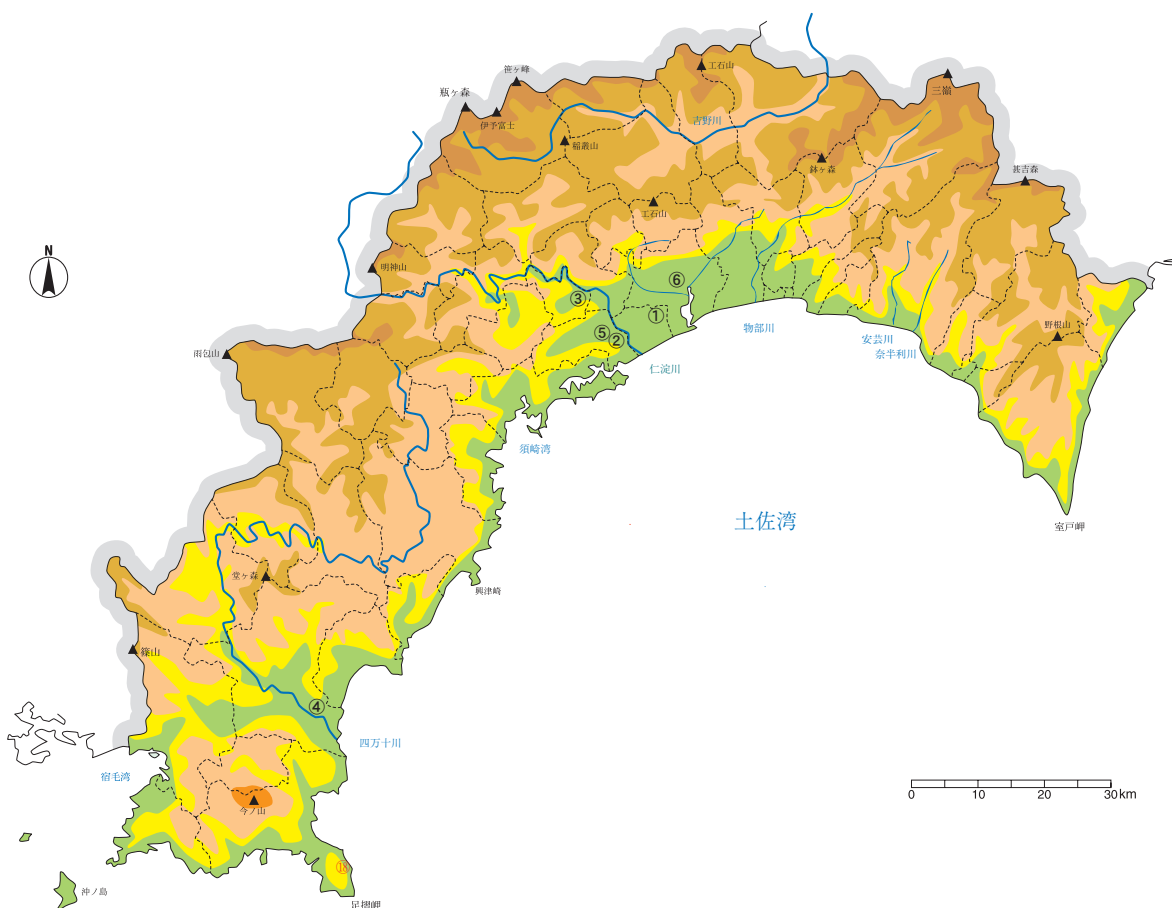


図3 平成14年度受託事業発掘調査(本調査)位置図(番号は受託事業発掘調査(本調査)一覧表の番号と一致)

表3 平成14年度受託事業発掘調査(本調査)一覧表

No.	遺跡名	調査略号	所在地	時代	種別	面積	期間	原因	委託者
1	西分増井遺跡	02-2HN	吾川郡春野町西分	弥生 ～ 中世	集落跡	3,510㎡	4/1 ～ 10/10	河川改修	高知県
2	野田遺跡	02-3TN	土佐市高岡町野田	古代 ～ 中世	集落跡	2,169㎡	5/13 ～ 2/28	バイパス建設	国土交通省
3	京間遺跡	02-4TK	土佐市高岡町京間	中世 ～ 近世	集落跡	2,237㎡	6/26 ～ 10/30	バイパス建設	国土交通省
4	不破遺跡	02-5NF	中村市不破	中世 ～ 近世	散布地	1,459㎡	10/15 ～ 1/15	高規格道路建設	国土交通省
5	千本杉遺跡	02-7HS	高岡郡日高村小村	古代 ～ 中世	集落跡	375㎡	9/1 ～ 11/8	県道建設	高知県
6	高知城跡	02-9KK	高知市丸ノ内1丁目2-1	近世	城館跡	200㎡	8/1 ～ 2/28	遺跡整備	高知県
	合計					9,950㎡			

ることになる。高知県関連の事業に目をむけると、春野町新川川の河川改修に伴う西分増井遺跡群の調査面積が全体の約86%を占めている。高知城跡の整備事業は、平成13年度から調査されていた本丸南石垣部分の解体が終了し、本年度より石垣の積み直し事業に入り引き続き平成15年度にも実施される。試掘確認調査を実施した受託事業の委託者は、高知県が6件、国土交通省が1件であった。このうち安芸土木事務所の県道高台寺川北線緊急地方道路に伴うジョウマン遺跡の本発掘調査が平成15年度に予定されている。高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群、土佐市バイパス建設や中村宿毛道路建設に伴う発掘調査など大規模開発に伴う調査がそれぞれ整理作業の段階に入ったこともあり、平成14年度に実施した受託事業(本発掘調査、試掘確認調査)の受託総面積は10,488㎡となり前年度の21,853㎡に比べると約52%の減少となっている。これは、集計を取り始めた平成3年度以来で最も低い数字で実に平成10年度のピーク時の約10分の1である。

埋蔵文化財センター以外の調査では、本発掘調査は11件、試掘確認調査は46件、立会調査が41件となっている。個別にみると本発掘調査は、前年度に比べ件数そのものでは5件の増加を見るが調査面積では半減している。これは、大規模圃場整備事業が減少していることによるものである。また、前年度に引き続き岡山大学が初平ヶ岩屋洞穴遺跡と南国市教育委員会による土佐国衙跡の2件の学術調査も実施された。試掘確認調査は、件数が46件である。調査面積では、813㎡増加しており件数別にみると事業者が民間(個人を含む)によるものが19件、市町村が13件、高知県が7件、土地区画整理組合が4件、国土交通省が2件、四国森林局が1件となっている。

(1) 受託事業

平成14年度の受託事業の総数は28件で、内訳は本発掘調査が6件(表3) 試掘確認調査が7件(表4) 整理作業が15件(表6)となる。本発掘調査の受託先は、国土交通省3件、高知県が3件となっている。国土交通省関係では、土佐市バイパス関連の京間遺跡、野田遺跡、中村宿毛道路関連の不破遺跡の3件で、野田遺跡では、中・近世の掘立柱建物跡や屋敷を区画していたとみられる溝跡、昨年度の調査より古代寺院の存在が考慮されていたが、さらに寺院を区画していたと考えられる溝と多量の瓦の出土があった。京間遺跡では、平地式でだるま形を呈する中世の簡易な窯跡が確認された。さらに近世の面では掘立柱建物跡も確認された。不破遺跡では、四万十川の流れに沿った畝状の遺構と畝間に戦前の耕作面と考えられる土層が確認された。高知県から受託は、新川川広域河川改修に伴う西分増井遺跡群、県道庄田伊野線緊急地方道路整備事業に伴う千本杉遺跡、石垣整備事業に伴う高知城跡の3件である。昨年度の調査で銅鐸、銅矛、銅戈などの青銅器類や多量の鉄器、鉄片の出土をみた西分増井遺跡群では、さらに弥生時代後期から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡や土坑が検出された。千本杉遺跡では、古代末から中世にかけての柱穴を多数検出し貿易陶磁器、東播系須恵器、瓦器等の出土遺物からは他地域との交流を窺うこともできる。高知城本丸石垣解体修理に伴う発掘

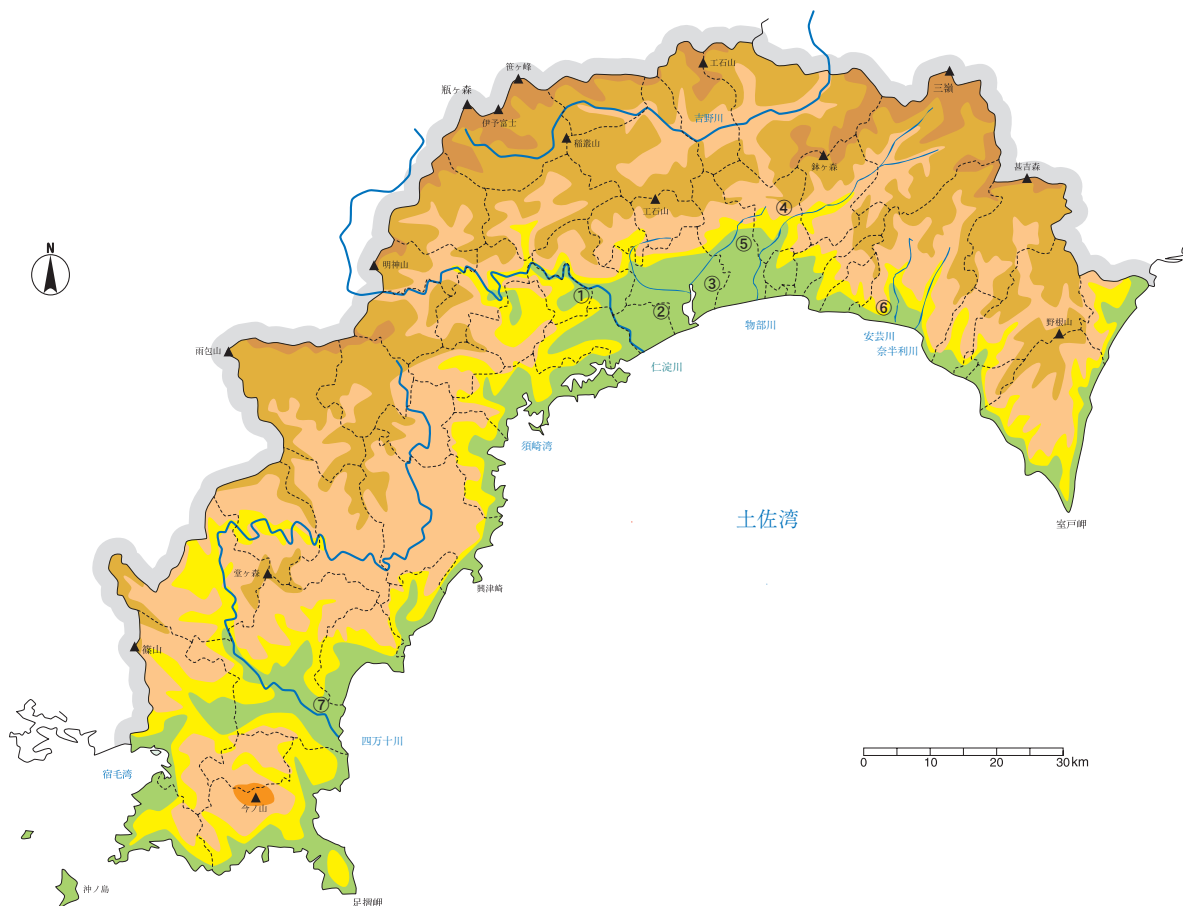


図4 平成14年度受託事業発掘調査(試掘調査)位置図(番号は受託事業発掘調査(試掘調査)一覧表の番号と一致)

表4 平成14年度受託事業発掘調査(試掘調査)一覧表(表中のNo.は図4の番号と一致している)

No.	遺跡名	調査略号	所在地	時代	種別	面積	期間	原因	委託者
1	千本杉遺跡	02-7HS	高岡郡日高村小村	弥生	散布地	6㎡	6/26	県道建設	高知県
2	西分増井遺跡群	02-8HT	吾川郡春野町西分	弥生	集落跡	112㎡	7/1 ～ 7/4	河川改修	高知県
3	介良白水遺跡	02-10KS	高知市介良字白水	古代 ～ 中世	散布地	128㎡	9/11 ～ 9/12	県道建設	高知県
4	楠目地区遺跡	-	香美郡土佐山田町楠目	古代 ～ 中世	散布地	64㎡	12/10	都市計画道路	高知県
5	土島田遺跡	-	南国市廿枝	古墳 ～ 近世	散布地	48㎡	1/7	道路建設	高知県
6	ジョウマン遺跡	-	安芸市土居一ノ坪82-1 他	弥生 ～ 古代	散布地	128㎡	1/28 ～ 1/29	道路整備	高知県
7	不破遺跡	-	中村市不破	中世	散布地	52㎡	1/31 ～ 2/5	高規格道路建設	国土交通省
	合計					538㎡			

調査では、堀底遺構の礎石を検出した。また、石垣の裏ゴメからの出土遺物、盛土の堆積状況からこれまでに数回の積み替えが行われていたことやその部分での孕みが生じていることがわかった。

試掘確認調査は7件で受託先の6件までが高知県となっている。6件の内訳は、すべて河川改修、道路整備事業に伴うもので伊野土木事務所管轄が2件(千本杉遺跡、西分増井遺跡群)、高知土木事務所が1件(介良白水遺跡)、南国事務所が2件(楠目地区、土島田遺跡)、安芸土木事務所1件(ジョウマン遺跡)となっている。このうち、西分増井遺跡は引き続き平成14年度の本調査の対象面積を拡大して実施した。県道高台寺川北線緊急地方道路に伴う安芸市のジョウマン遺跡は、溝状遺構が検出され弥生土器、土師器、須恵器の出土遺物もあり平成15年度に本調査が実施される予定である。他の試掘確認調査については、本発掘調査を必要とする遺物包含層や、遺構を確認することができなかった。国土交通省から委託された中村宿毛道路建設工事に伴う不破遺跡では7ヶ所の試掘トレンチを設定したが遺構、遺物包含層とも確認することができなかった。

発掘調査報告書刊行に伴う事業は15件あり、受託先の内訳は高知県が7件、国土交通省が6件、日本道路公団が1件、最高裁が1件となっている。これらのうち基礎作業が継続され報告書の刊行が次年度以降に計画されているものや報告書印刷費のみ計上されているものなど、実際に刊行された報告書は表11のとおりである。なお、国土交通省関係の田村遺跡群、野田遺跡・京間遺跡と日本道路公団関係の居徳遺跡については平成15年度も引き続き受託事業として整理作業が行われる。

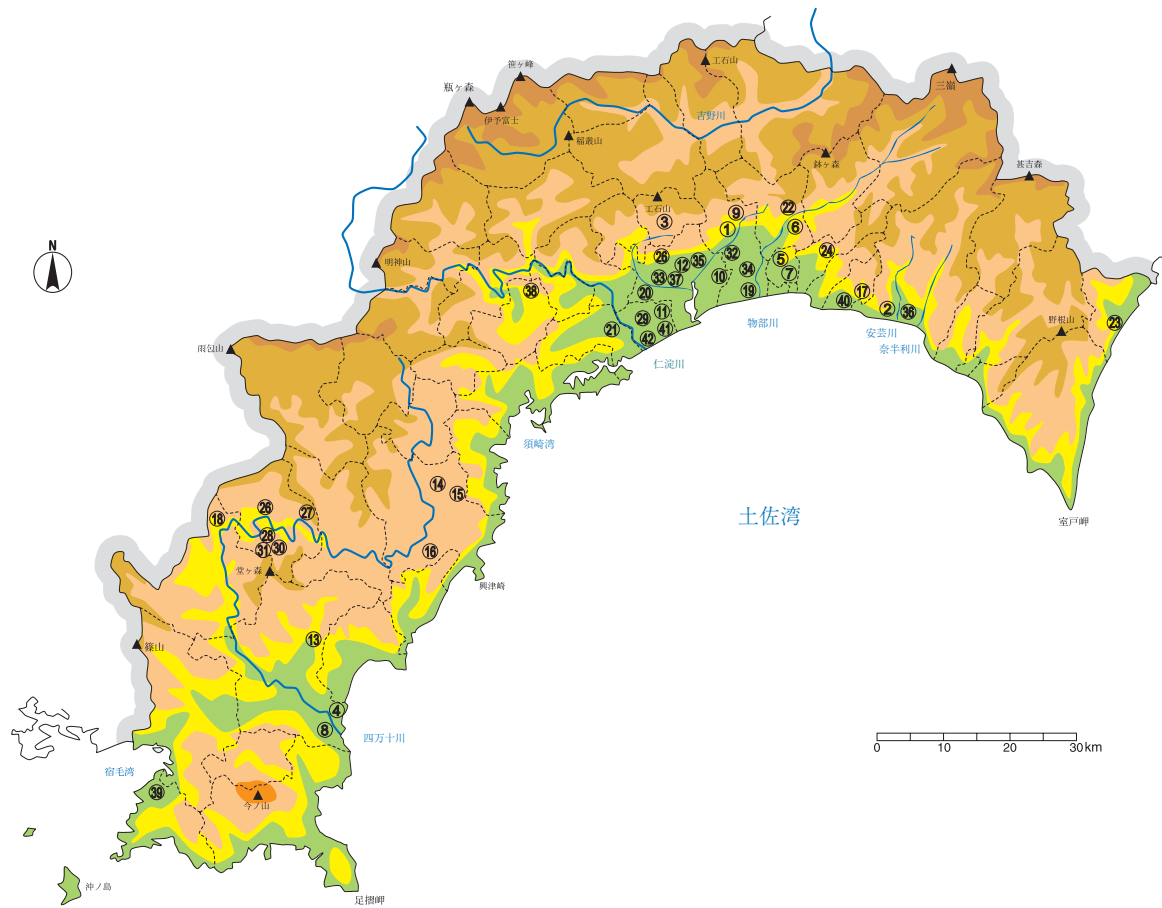


図5 平成14年度県・市町村教委発掘調査位置図(番号は県・市町村教委発掘調査事業一覧表の番号と一致)

表5 平成14年度県・市町村教育委員会発掘調査(本調査)一覧表(表中のNo.は図5の番号と一致している)

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	原因	事業者	調査主体	期間	面積
1	土佐国分寺跡	南国市国分546	古代	社寺跡	現状変更	個人	南国市教育委員会	6/10 ~ 6/28	90㎡
2	瓜尻遺跡	安芸市井ノ口甲1198-2 他	中世	散布地	道路拡張工事	安芸市	安芸市教育委員会	5/9 ~ 6/28	152㎡
3	初平ヶ岩屋洞窟	土佐郡土佐山村菖蒲字大敷1548	縄文 弥生	洞穴遺跡	学術調査	-	岡山大学	8/1 ~ 8/7	10㎡
4	古津賀遺跡群	中村市古津賀字西中野・西大場	弥生 古墳・中世	祭祀跡	土地区画整理	土地区画整理組合	中村市教育委員会	4/1 ~ 8/20	800㎡
5	兔田柳ヶ本遺跡	香美郡野市町兔田字柳ヶ本60-1 他	弥生	集落跡	処理場建設	野市町	野市町教育委員会	5/13 ~ 8/30	2,000㎡
6	林田遺跡	香美郡土佐山田町大字加茂字八幡754 他	弥生 中世	集落跡	県道建設	高知県	土佐山田町教育委員会	9/10 ~ 9/13	43㎡
7	曾我遺跡	香美郡野市町中ノ村字岩田1651	古代	集落跡	農業施設	野市町	野市町教育委員会	9/2 ~ 10/3	500㎡
8	具同中山遺跡群	中村市具同2910-1	弥生 中世	祭祀・ 集落跡	ガソリンスタンド建設	民間	中村市教育委員会	10/25 ~ 11/7	60㎡
2	瓜尻遺跡	安芸市井ノ口甲1198-2 他	中世	散布地	道路拡張工事	安芸市	安芸市教育委員会	11/14 ~ 12/3	83㎡
9	土佐国衙跡	南国市比江字国庁606	古代	官衙跡	学術調査	-	南国市教育委員会	11/25 ~ 12/6	1,278㎡
9	土佐国衙跡	南国市比江字中屋敷301-1 他	古代	官衙跡	個人住宅建築	個人	南国市教育委員会	1/15 ~ 1/28	312㎡
	合計								5,328㎡

表6 平成14年度受託事業(整理作業)一覧表

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	原因	委託者
1	勇前遺跡	安芸市内原野	弥生	集落跡	県道建設	高知県
2	田村遺跡群	南国市物部	縄文 ～ 近世	集落跡	空港建設	国土交通省
3	林田遺跡	香美郡土佐山田町林田	古代	集落跡	県道建設	高知県
4	岡豊城跡	南国市岡豊町	古代 ～ 中世	城館跡	河川改修	高知県
5	高知城跡	高知市丸ノ内	近世	城館跡	遺跡整備	高知県
6	高知城伝下屋敷跡	高知市丸ノ内	古代 ～ 現代	屋敷跡	裁判所改築	最高裁
7	東江曲遺跡	吾川郡春野町弘岡下	弥生	集落跡	河川改修	高知県
8	西分増井遺跡群	吾川郡春野町西分	弥生 ～ 中世	集落跡	河川改修	高知県
9	居徳遺跡群	土佐市高岡町乙	縄文 ～ 古墳	集落・ 祭祀跡	四国横断自動車道	日本道路公団
10	野田遺跡・京間遺跡	土佐市高岡町野田・京間	古代 ～ 近世	集落跡	バイパス建設	国土交通省
11	千本杉遺跡	高岡郡日高村小村	古代 ～ 中世	集落跡	県道建設	高知県
12	古津賀遺跡群	中村市古津賀	古墳	祭祀跡	高規格道路建設	国土交通省
13	具同中山遺跡群Ⅱ-2	中村市具同	弥生 ～ 古墳	祭祀跡	高規格道路建設	国土交通省
14	久木ノ城跡・遺跡	中村市上ノ土居	弥生	集落跡	高規格道路建設	国土交通省
15	神ヶ谷2号窯跡	宿毛市平田	古代	窯跡	高規格道路建設	国土交通省



表7 平成14年度県・市町村教育委員会発掘調査(試掘確認調査)一覧表1(表中のNoは図5の番号と一致している)

No	遺跡名	所在地	時代	種別	原因	事業者	調査主体	期間	面積 (㎡)
4	古津賀遺跡群	中村市古津賀(古墳前)	弥生・古墳 ～中世	祭祀・ 集落跡	土地区画整理	土地区画整理 組合	中村市教委	8/5～8/20	126
4	古津賀遺跡群	中村市古津賀1299-ロ他	弥生・古墳 ～中世	祭祀・ 集落跡	下田線雨水排 水路工事	土地区画整理 組合	中村市教委	8/19	18
4	古津賀遺跡群	中村市古津賀字尾崎ノハ ナ 他	弥生・古墳 ～中世	祭祀・ 集落跡	土地区画整理	土地区画整理 組合	中村市教委	9/30～10/28	640
4	古津賀遺跡群	中村市古津賀字大ツエ 他	弥生・古墳 ～中世	祭祀・ 集落跡	土地区画整理	土地区画整理 組合	中村市教委	1/30	465
6	林田遺跡	香美郡土佐山田町大字加 茂字八幡	弥生	集落跡	県道改良	高知県	高知県教委	8/12	8
7	曾我遺跡	香美郡野市町中ノ村字岩 田	古代	散布地	農業用貯水施 設設置	野市町	野市町教委	7/8	16
8	具同中山遺跡群	中村市具同	弥生～中世	祭祀・ 集落跡	遊戯施設建設	民間	中村市	2/17～3/4	165
8	具同中山遺跡群	中村市具同字北ミソデン	弥生～中世	祭祀・ 集落跡	店舗建築	民間	中村市	3/4～3/20	80
10	介良遺跡	高知市介良字奥ノ土居乙 486-4他	弥生～中世	散布地	共同住宅建築	個人	高知市教委	4/1	10
10	介良遺跡	高知市介良乙1271	弥生～中世	散布地	公民館建築	民間	高知市教委	5/21	15
11	西分増井遺跡	吾川郡春野町西分150	縄文～弥生	集落跡	工場移転	個人	春野町教委	4/15～4/19	50
12	秦泉寺廃寺跡	高知市中秦泉寺95	古代	寺院跡	店舗建築	個人	高知市教委	5/2	2
12	秦泉寺廃寺跡	高知市中秦泉寺鷹通 100-2	古代	寺院跡	店舗付住宅建 築	個人	高知市教委	9/18	10
13	田ノ川城跡	中村市田野川乙字城丸 1315-1 他	中世	城館跡	土砂採取	民間	中村市教委	5/7～5/8	44
14	七里上小野川地 区	高岡郡窪川町七里	-	-	ほ場整備	高知県	窪川町	5/13～5/24	38
15	辻ノ川遺跡	高岡郡窪川町辻の川	弥生～近世	散布地	ほ場整備	高知県	窪川町	5/24～5/30	82
16	天ノ川遺跡	高岡郡窪川町天の川	縄文	散布地	ほ場整備	高知県	窪川町	5/30～6/12	144
17	大木ヶ本遺跡	安芸郡芸西村馬ノ上	弥生	散布地	駐車場整備	芸西村	芸西村	7/3～7/4	33
17	大木ヶ本遺跡	安芸郡芸西村馬ノ上	縄文～古墳	散布地	ほ場整備	芸西村	芸西村教委	10/15～11/20	182
18	伊豆ヶ谷遺跡	幡多郡西土佐村江川崎字 伊豆ヶ谷・宮ノ前	縄文	散布地	ほ場整備	高知県	西土佐村委	6/24～6/28	40
19	田村城館跡	南国市田村字桂昌寺中乙 571-1 他	中世	城館跡	空港周辺整備	国土交通省	南国市教委	7/8～7/23	76
20	柳田遺跡	高知市朝倉東町147-1 他	縄文・弥生 古代・中世	散布地	店舗建築	民間	高知市教委	7/24～7/26	110
20	柳田遺跡	高知市朝倉字糺原甲60-1 ・61	縄文・弥生・ 古代・中世	散布地	眼科医院建築	個人	高知市教委	12/17～12/18	100

表8 平成14年度県・市町村教育委員会発掘調査(試掘確認調査)一覧表2(表中のNoは図5の番号と一致している)

No	遺跡名	所在地	時代	種別	原因	事業者	調査主体	期間	面積 (㎡)
21	野田遺跡	土佐市高岡町字光安乙3312-1 他	縄文～中世	散布地	店舗建築	民間	土佐市教委	8/29	12
22	ひびのきサウジ遺跡	香美郡土佐山田町百石町1丁目	弥生～近世	集落跡	病院施設建設	民間	土佐山田町教委	7/22～7/26	24
22	ひびのきサウジ遺跡	香美郡土佐山田町百石町1-25-12	弥生～近世	集落跡	住宅建築	個人	土佐山田町教委	11/12	4
23	野根遺跡	安芸郡東洋町野根中村	弥生	散布地	用地売却	四国森林局	高知県教委	9/18	36
24	上分地区	香美郡香我美町上分	-	-	農道整備	高知県	高知県教育委	10/9	32
25	宇津野遺跡	高知市宇津野字北谷28-1	縄文	散布地	宅地造成	民間	高知市教委	11/19	30
26	川口新階遺跡	幡多郡十和村川口字新階502-3 他	縄文	散布地	ほ場整備	十和村	十和村教委	10/16	16
27	津賀地区	幡多郡十和村津賀字アノキ田 他	-	-	ほ場整備	十和村	十和村教委	10/17～10/18	36
28	小野地区	幡多郡十和村小野字彦三屋敷 他	-	-	ほ場整備	十和村	十和村教委	10/22～10/29	162
29	馬場末遺跡	吾川郡春野町西分4026・4027			学術調査	春野町	春野町教委	12/9～12/11	102
30	上広瀬遺跡	幡多郡十和村廣瀬字宮ノ堀 他	縄文	散布地	ほ場整備	十和村	十和村教委	11/12～11/22	244
31	広瀬遺跡	幡多郡十和村廣瀬字中屋敷 他	縄文	散布地	ほ場整備	十和村	十和村教委	11/25～12/11	166
32	小籠北遺跡近接地	南国市小籠	-	-	施設建築	民間	南国市教委	12/11～12/18	202
33	龍馬の生まれた町記念館予定地	高知市上町2丁目6-33, 34, 35	-	-	観光施設建設	高知市	高知市教委	2/6～2/10	56
34	芦ヶ谷西地区	南国市稲生字十三代	-	-	高知南国道路	国土交通省	高知県教委	10/8	48
35	薊野遺跡	高知市薊野字石井流60-1 他	古代	散布地	造成工事	民間	高知市教委	1/25～2/1	53
36	桜木遺跡	安芸市川北	古代		河川改修工事	高知県	高知県教委	5/9～10/3	150
37	森田久右衛門及び小高坂森田家墓所	高知市三の丸	-	-	宅地造成	民間	高知市教委	3/3	100
38	黒岩城跡	高岡郡佐川町黒原	中世	城館跡	住宅建築	佐川町	佐川町教委	2/17～2/19	50
39	芳ノ沢地区	大月町芳ノ沢字轟山	-	-	風力観測装置設置	民間	大月町教委	8/20～1/16	170
40	附野遺跡	安芸郡芸西村和喰	弥生	散布地	地震観測施設	民間	芸西村教委	3/10～3/11	12
41	梅ノ木谷遺跡	春野町甲殿	縄文～近世	集落跡	学術調査	春野町	春野町教委	2/17～3/11	208
42	仁ノ遺跡	春野町仁ノ	弥生～古代	散布地	学術調査	春野町	春野町教委	3/13～3/24	64
	合計								4,431

表9 平成3～14年度の県内発掘調査件数と調査面積一覧

項目 年度	受託 件数	受託面積	職員派遣 件数	職員派遣 調査面積	調査面積 小計	県市町村 調査件数	県市町村 調査面積	県市町村 立会件数	県市町村 立会面積	調査面積 合計
平成3年度	16件	24,310㎡	18件	10,270㎡	34,580㎡	5件	870㎡	0件	0㎡	35,450㎡
平成4年度	11件	14,663㎡	23件	14,984㎡	29,647㎡	1件	90㎡	0件	0㎡	29,737㎡
平成5年度	16件	17,010㎡	24件	22,630㎡	39,640㎡	0件	0㎡	0件	0㎡	39,640㎡
平成6年度	10件	28,233㎡	26件	10,650㎡	38,883㎡	5件	907㎡	7件	1,253㎡	41,043㎡
平成7年度	14件	28,856㎡	21件	12,412㎡	41,268㎡	6件	4,484㎡	12件	265㎡	46,017㎡
平成8年度	20件	88,178㎡	13件	16,508㎡	104,686㎡	31件	11,475㎡	16件	649㎡	116,810㎡
平成9年度	14件	93,675㎡	8件	7,584㎡	101,259㎡	39件	15,530㎡	13件	1,179㎡	117,968㎡
平成10年度	20件	111,990㎡	8件	3,177㎡	115,167㎡	50件	19,647㎡	12件	7,351㎡	142,165㎡
平成11年度	23件	41,320㎡	10件	25,762㎡	67,082㎡	47件	41,348㎡	14件	6,621㎡	115,051㎡
平成12年度	6件	27,314㎡	15件	17,735㎡	45,049㎡	10件	41,268㎡	26件	13,127㎡	99,444㎡
平成13年度	31件	21,853㎡	2件	0㎡	21,853㎡	48件	13,313㎡	31件	2,853㎡	38,019㎡
平成14年度	28件	10,488㎡	4件	0㎡	10,488㎡	57件	9,759㎡	41件	24,754㎡	45,001㎡
合計	209件	507,890㎡	172件	141,712㎡	649,602㎡	299件	154,260㎡	172件	58,052㎡	866,345㎡

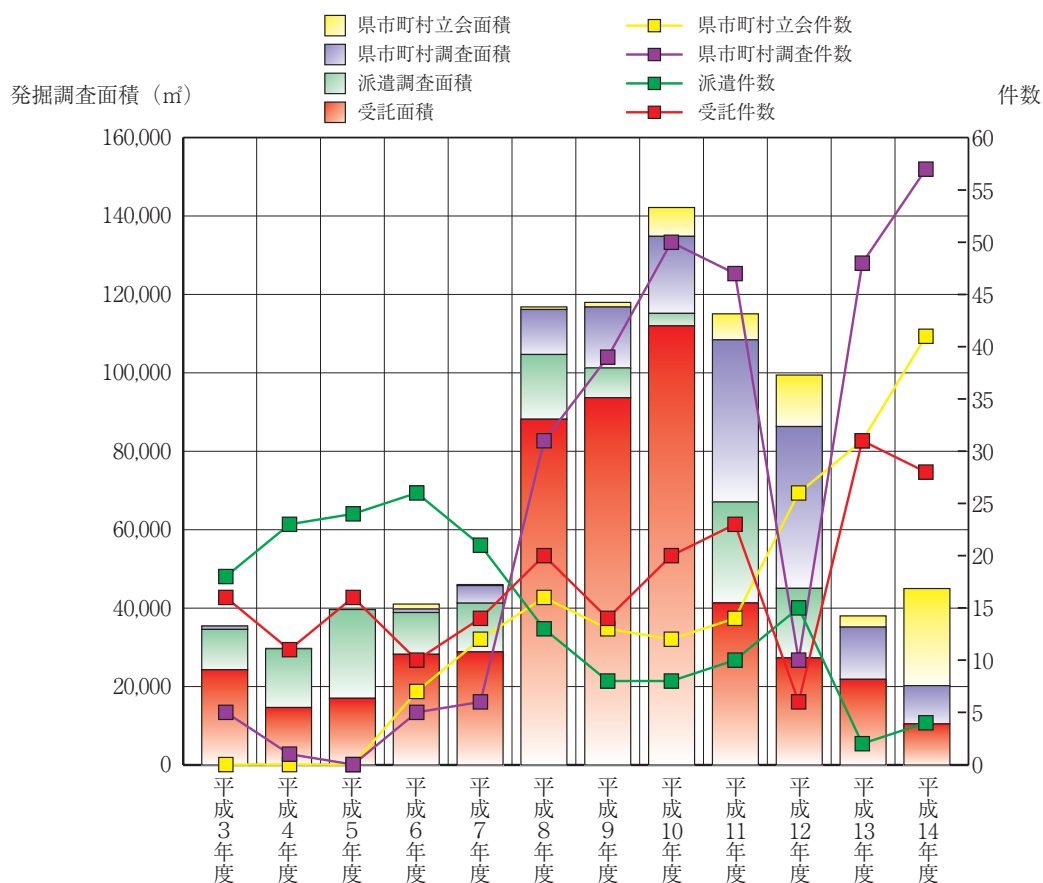


図6 調査面積と調査件数変動グラフ

## (2) 派遣事業

平成14年度は、昨年度同様整理作業指導に伴う派遣事業があったものの、発掘調査にかかる派遣事業は高知県西部の大月町や十和村での試掘や本調査指導があり、その他は古墳の現地確認や整理作業の指導があった。全体的に発掘調査や整理作業の派遣は少なくなってきている。

表10 平成14年度派遣事業

市町村名	事業名	遺跡名	調査員名	派遣年月	作業別	面積	備考
大月町	町内遺跡発掘調査	大月町内遺跡	前田 光雄	5月9日～ 3月31日	調査指導	2000㎡	
土佐市		宮ノ谷古墳	山本 哲也	7月23日	現地確認		
十和村	村内遺跡発掘調査	十和村内遺跡	前田 光雄	10月1日～ 3月20日	試掘調査	340㎡	
奈半利町	圃場整備	コゴロク廃寺他	廣田 佳久	10月1日～ 3月20日	整理指導		報告書作成

## 2. 発掘調査報告書刊行・資料管理事業

平成14年度に刊行された報告書は表11のとおり高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第74集から第81集の8冊であった。『岡豊城跡Ⅲ』－国分川激甚対策特別緊急事業に伴う発掘調査報告書－は、南国市岡豊山南斜面に位置する伝家老屋敷曲輪に通じる地点の調査成果を報告したものである。『高知城伝下屋敷跡』－高知地家簡裁庁舎敷地埋蔵文化財調査報告書－は、高知城南西側の裁判所立て替えに伴う発掘調査で山内氏関連の屋敷があったことを示す豊富な遺物や遺構が確認された。『林田遺跡Ⅱ』－県道宮ノ口深淵線発掘調査報告書－は、平成12年度に実施された土佐山田町の林田遺跡Ⅲ区の発掘調査成果をまとめた報告書である。『勇前遺跡』－県道宮ノ上川北線発掘調査報告書－は、竪穴住居跡4棟の検出と搬入土器の出土遺物がみられた安芸市勇前遺跡の調査成果をまとめたものである。『居徳遺跡群Ⅳ』－四国横断自動車道発掘調査報告書－は、確認調査、1E区、2A区、3B区、4C区の調査成果をまとめたもので4C区の縄文時代晩期の自然流路からは木胎漆器、鍬の出土がみられた。『東江曲遺跡』－新川川河川災害復旧助成事業に伴う発掘調査報告書－では、調査成果として弥生時代後期を中心とする竪穴住居跡4棟、弥生時代後期終末から古墳時代前期初頭の集中遺物がみられた。『西分増井遺跡Ⅰ』－新川川広域河川改修に伴う西分増井遺跡発掘調査報告書－は、大用川左岸の1A区・B区・C区の古代の遺物・遺構についての調査成果の報告で8世紀代を中心とする祭祀関連土坑が検出された。『久木ノ城跡・遺跡、古津賀遺跡、神ヶ谷2号窯跡、具同中山遺跡群Ⅱ-2』－中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ－は、中村宿毛高規格道路建設計画に伴い平成12・13年度に実施した発掘調査の成果をまとめ報告をしたものである。

市町村関係では、表12のとおり5冊の報告書が刊行された。資料管理事業では、平成10年度郵政省の寄附金で導入した埋蔵文化財センター情報管理システムの整備を引き続き行っており、報告書

抄録をデータベース化した「県内発掘調査情報管理」では埋蔵文化財センター以外も含めこれまで県内で刊行された報告書のデータベース化が完了し他の情報管理データベースについても随時整備している。なお、埋蔵文化財センターの URL と公開データベース及びメールアドレスは以下のとおりである。

ホームページ(URL) : <http://www2.net-kochi.jp/~kenbunka/maibun/>

公開データベース : <http://www.sites.tosa.net-kochi.gr.jp/>

メールアドレス : [maibun@tosa.net-kochi.jp](mailto:maibun@tosa.net-kochi.jp)

表11 平成14年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第74集	岡豊城跡Ⅲ —国分川激甚対策特別緊急事業に伴う 発掘調査報告書—	南国市岡豊	松田直則・今 田充・久家隆 芳
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第75集	高知城伝下屋敷跡 —高知地家簡裁庁舎敷地埋蔵文化財 発掘調査報告書—	高知市丸ノ 内	池澤俊幸・ 大野佳代子・ 佐々木志穂・ 森田尚宏
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第76集	林田遺跡Ⅱ —県道宮ノ口深淵線発掘調査報告書—	香美郡土 佐山田町林 田・加茂	出原恵三
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第77集	勇前遺跡 —県道宮ノ上川北線発掘調査報告書—	安芸市内原 野	森田尚宏・久 家隆芳
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第78集	居徳遺跡群Ⅳ —四国横断自動車道発掘調査報告書—	土佐市高岡 町乙居徳 ほか	佐竹寛・藤方 正治・下村裕・ 曾我貴行
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第79集	東江曲遺跡 —新川川河川災害復旧助成事業に伴う発掘調査 報告書—	吾川郡春野 町東江曲	出原恵三・小 嶋博満
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第80集	西分増井遺跡Ⅰ —新川川広域河川改修に伴う発掘調査報告書—	吾川郡春野 町成岡・中 央	出原恵三・山 本純代
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第81集	久木ノ城跡・遺跡、古津賀遺跡 神ヶ谷窯跡、 具同中山遺跡群Ⅱ-2 —中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—	中村市上ノ 土居・古津 賀・具同 宿毛市平田	廣田佳久・岩 本繁樹・下村 裕

表12 平成14年度市町村刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
土佐山田町 埋蔵文化財発掘調査報告書第26集	楠目城跡(山田城跡)	香美郡土佐山田町楠目 字城山3548-3 他	中山泰弘
土佐山田町 埋蔵文化財発掘調査報告書第20集	須恵ツカアナ古墳	香美郡土佐山田町須恵 字五反地1049	中山泰弘
土佐山田町 埋蔵文化財発掘調査報告書第27集	入野南山ノ陰遺跡	香美郡土佐山田町入野 字南山ノ陰	中山泰弘・穴沢義功・ 研川英征・大澤正己・ 鈴木瑞穂
奈半利町 埋蔵文化財発掘調査報告書第1集	コゴロク遺跡群	安芸郡奈半利町字中川 原・北深田・普光院・ 樋ノ口・中里 他	廣田佳久・門田透・平 島丈徳
春野町 埋蔵文化財発掘調査報告書第17集	仁ノ遺跡	吾川郡春野町仁ノ字四 ノ坪・川原田・小島	松村信博・徳平晶

表13 平成14年度遺物貸出一覧

貸出先	目的と貸出期間	遺跡名	貸出資料
高知県立中村中・高等学校	社会科授業内での参考資料 平成14年6月1日～当分の間	指定無し	土器、土器片、石器 中・近世陶磁器等コ ンテナ2箱
高知県立高知東高等学校	社会科授業内での参考資料 平成14年6月10日～当分の間	具同中山遺跡群Ⅳ ヒビノキサウジ遺跡 田村遺跡群	土器、土器片等コン テナ5箱
国際航業株式会社アドバンス事業 本部文化財事業部	『文化遺産の世界』第7号 平成14年8月30日～11月30日	居徳遺跡群	写真1枚
愛媛県歴史文化博物館	「発掘された日本列島2002・地域展えひ め発掘物語」 平成14年9月10日～平成15年1月19日	岡豊城跡	軒平瓦1点
下関市立考古博物館	「瀬戸内海を介した交流 ―弥生時代の 北部九州と四国―」 平成14年9月17日～12月10日	田村遺跡群	松菊里型土器1点
高知県立高知江の口養護学校	社会科授業内での参考資料 平成14年9月24日～10月4日	宿毛貝塚 ヒビノキサウジ遺跡 東崎遺跡	土器10点
安芸市立歴史民俗資料館	「土佐の先史文化交流 ―旧石器時代か ら弥生時代―」 平成14年11月6日～平成15年1月19日	奥谷南遺跡 居徳遺跡群 田村遺跡群 他	埋蔵文化財センター で開催された企画展 の巡回展示

### 3. 普及啓発事業

埋蔵文化財に対してより多くの方々に理解をしていただくため、当センターの主要な事業の一つとして普及啓発事業がある。主なものには発掘調査の成果を公表し遺跡に身近に接してもらう現地説明会、また、各研修会への講師派遣や企画展・常設展の開催。学習や体験を通して子どもたちに、より考古学を身近にそして考古学の楽しさを感じてもらおう考古学教室等を実施している。平成14年度に埋蔵文化財センターを訪れた見学者は1,152名で、内訳は表25・26である。

#### (1) 記者発表・現地説明会

平成14年度に開催した記者発表・現地説明会は千本杉遺跡の1件であった。千本杉遺跡は、日高村の小村神社参道沿いに走る県道伊野－庄田線の東側に位置し、約1,000㎡を発掘調査したもので11月4日の現地説明会には地域の方々を中心に80名の参加者があった。

#### (2) 企画展

高知国体の開催に伴い、埋蔵文化財センターの本館展示室において、企画展『土佐の先史文化交流』が8月1日(木)～10月31日(木)の間に開催された。展示企画としては、国体を題材にして、高知県を舞台にした人と物の交流の歴史を探ることに主眼を置き、旧石器時代から弥生時代にかけての文化交流の流れを、写真やパネルによる展示解説を交えて、近年の発掘調査による遺物等を各時代ごとにコーナー展示した。また、発掘調査から出土品の整理作業に至る過程をまとめたパネル展示やビデオ放映を行い、埋蔵文化財センターの業務内容を紹介したり、県下の小学校等へ出かけて授業や展示を行う出前考古学教室の内容や生徒からの感想文のパネル展示、土器や石器などに直接ふれたり粘土に文様付けを行う体験コーナーなどを設けた。会場は、常設展示室と研修室を併せたオープンスペースを利用し、また、展示室前ロビーにも、参考図書や展示関係の調査報告書等の閲覧コーナーを設け、特別収蔵庫には土佐市天崎遺跡から出土した銅矛4本を並べて公開した。今回の企画展では、展示行事として8月9月の毎週土曜日の午後2時から「考古学教室」を行い、展示解説と火起こしなどの体験学習等を行い、延べ52名の参加があった。また、8月25日(日)には近くのホテルを会場に、岡山大学文学部の稲田孝司教授による記念講演会『細石刃文化の波及－1.4万年前の「鎖国と黒船」』を行い、約60名近くの方々が熱心に聴講された。開催期間中の見学者は644人だったが、好評のうちに終了した。なお、高知県立埋蔵文化財センターで開催された企画展『土佐の先史文化交流』は、安芸市立歴史民俗資料館で11月10日から1月19日までリレー展示され、延べ888名の方々に見学いただき、合算することが許されるならば延べ1,532名の県民の皆様方に見学いただいたことになる。次年度以降、さらに多くの方々に施設を利用していただき、常設展及び企画展にご来場いただきたいと思う。



写真1  
企画展全体展示風景

写真2  
弥生土器展示



写真3  
企画展記念講演会



(3) 速報展「居徳人骨―殺傷痕・損傷痕を有する人骨の出土―」(埋蔵文化財センター共催)

平成14年3月19日に奈良文化財研究所で記者発表が実施された居徳遺跡出土の人骨について、高知県立歴史民俗資料館との共催により、速報展示をおこなった。この資料は記者発表後、「縄文時代の戦争か?」、「集団内暴力か?」などの議論を喚起し、「教科書も変わる?」発見として一躍、全国ニュース・全国紙上に取り上げられ、大きな注目を集めていた。本展は、この新事実を逸早く県民に公開し、注目の資料とその問題に触れていただく機会とすることを目指した。

展示資料は、人骨15点と人骨模型2点(参考資料)を中心とし、これに同一地点出土の縄文土器、土製円板、土偶を加えて構成した。展示資料数は合計46点であった。また開催期間中には、関連行事として講演会1回と展示解説2回をおこなった。

展示会名 速報展「居徳人骨殺傷痕・損傷痕を有する人骨の出土」

会場 南国市岡豊町八幡1099-1 高知県立歴史民俗資料館3階総合展示室企画コーナー

期間 平成14年4月19日～

5月19日

(開催日数:27日間)

入場者数 4,357人

期間中の関連行事

○講演会

日時 4月20日

午後2時～4時

演題 「居徳人骨の殺傷痕・損傷痕について」

講師 松井 章氏(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター主任研究官)

聴講者 101人

○展示解説

日時 4月21日

午後2時～3時30分

聴講者 51人

日時 5月3日

午後2時～3時30分

聴講者 53人

講師 高知県立埋蔵文化財センター

主任調査員 曾我貴行



写真4 居徳遺跡展示1



写真5 居徳遺跡展示2

#### (4) 平成14年度 出前考古学教室実施報告

出前考古学教室は、平成11年度南国市内で初めて実施され、学校・保護者から好評を得ることができた。これを受けて平成12年度から、高知県教育委員会文化財保護室(現文化財課)が予算化し、高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施している。今年度は、12・13年度と同様に全県下の小学校を対象に実施することになった。県内の市町村に案内を送付したところ19市町村から希望する旨の回答があった。多くの学校から希望があったが、調整の結果27小学校で実施することになった。(平成14年度出前考古学教室実施一覧)

今年度の分担は、調査第5班を中心に、その他各班から1名ずつ担当を選出してもらい計8名で対応した。高知市内の大規模校は、全員で実施したが宿泊を伴う各学校については予算的なこともあり5名で対応した。さらに経験者が4名しかいなかったことから、最初の1校は全員で実施した。1クラスが40名を超える大規模校や、低学年については展示の説明にやや負担があった。さらに火起こしの見回り等には十分な対応ができなかったこともあった。今回は、各担当が18校から23校を訪問したことになる。平成14年度の担当者は、調査第5班長松田直則、専門調査員佐竹寛・大野佳代子・岩本繁樹・中山真司・松村信博、主任調査員今田充、調査員久家隆芳である。

県下26の小学校6年生教室と大方町小学校連合のあかつき館に向いて、遺跡や発掘調査について授業を行った。授業の内容は、各授業担当者により若干異なる点もあるが、基本的に埋蔵文化財センターの仕事の内容、各地域の遺跡の内容、遺物やパネル・ビデオを使用して遺跡を身近に感じてもらうことを目的に行った。昨年と同様に、教科書で習う歴史から自分達の地域に、身近に遺跡が数多く残っていることを学習し、人間の生きてきた尊さを歴史から学び、地域を大切にすることを育てることも目的のひとつとした。

展示場は、2校時目から放課後まで基本的に展示した。展示の学習は、大規模校を除いて1学年から5学年までの各クラスが入れ替わり見学にきた。子どもたちは、これまで遺跡から出土した遺物を見学したことは何回かあったようだが、実際手に触りながら学習することは初めてだったようで生きた学習ができた。特に触って感じた子どもたちは、「思っていたより軽い」とか、「2千年前に帰ったようだ」等の感想を述べていた。展示場では、1年から6年生までが学習するが、各学年に合わせて展示物の説明をしなければならず、低学年は少し難しいようだ。

火起こし体験は、子どもたちにとっては一番楽し



写真6 出前考古学教室展示説明

みにしていた部門で、各学校で最後に感想を聞くと、やはり火起こしが一番人気だった。最初に火起こし具の取り扱いについて説明し、どうして火がおこるのか、子どもたちに手を摩擦させ体験させ、模範演技を行い注意事項など説明し始めた。子どもたちは2人から3人のグループに分け、交替しながら体験を行う。ほぼ全員煙がでるまではいくが、火種をつけた子どもたちは各学校で数名程度だった。熱心な子どもたちは、休み時間や昼休み放課後など火起こし体験をやりこした。出前考古学教室で子どもたちが生き生きして、目が輝いていたのはこの火起こし体験である。今後増改築した埋文センターを利用してもらうには、その目玉として火起こし体験がいつでもできる埋文センターとしてピーアールしてもいいようだ。

授業を行った6年生の子どもたちには、出前考古学教室の感想文を書いて送ってもらったが、それ以外の学年で展示や火起こし体験をした子どもたちからも感想文を頂いた。さら



写真7 出前考古学教室火起こし

表14 平成11年度出前考古学教室実績

No.	実施日	市町村名	学校名	授業クラス			担当職員数	備考
				数	人数	人数		
1	5/10(月)	南国市	三和小学校	2	56	79	5	NHK・高知新聞取材
2	5/11(火)	〃	久礼田小学校	1	29	160	5	
3	5/12(水)	〃	鳶ヶ池中学校	2	56	90	5	テレビ高知・さんさんテレビ取材
4	5/17(月)	〃	大篠小学校	3	110	110	5	
5	5/18(火)	〃	大湊小学校	1	19	98	5	
6	5/20(木)	〃	奈呂小学校	1	15	27	6	美術館 保護者
7	6/1(火)	〃	北陵中学校	3	111	120	5	
8	6/8(火)	〃	日章小学校	2	40	205	7	RKC高知放送取材
9	6/10(木)	〃	国府小学校	1	9	71	5	保護者
10	6/11(金)	〃	十市小学校	2	60	468	5	南国市小中学校校長会参観
計			10校	18	505	1,428		

に先生方の感想として、各学校では社会を教える中で古墳時代から奈良時代までの学習が終わっていて、時期的にもちょうどの話で学習を深めることができた。この遺跡地図を子どもたちにそれぞれ配ったことに感謝された。中学年の子どもたちにとっては、45分の授業の中で15分間ずつビデオ・火起こし・展示説明の順で見学ができてよかったとの感想があった。また今まで、遺跡のことはまったく関心がなかった子どもたちが、古代へのあこがれを強く持つようになり、考古学を志す者が現れるかもしれないと思うとわくわくするという感想ももらった。

平成14年度の出前考古学教室は、県下27の小学校を巡った。授業では、計41クラスで941人の子どもたちに出会うことができた。さらに遺物の展示や火起こし体験をした子どもたちは、1年から5年生まで1,599名にもものぼる。授業を実施した6年生も含めると、2,540名もの子どもたちに埋蔵文化財センターや遺跡の紹介、遺物にも触れてもらうことができた。東は甲浦小学校から西は足摺岬小学校まで各学校を回り、我々と共に展示遺物の走行距離は2,351kmである。

各学校の授業を受けた子どもたち全員から、丁寧な感想文まで頂いた。その中の一部を今回報告の中で掲載させてもらっている。941人の子どもたちの感想文をすべて読んで思うことは、知り合うことのできた2,540名の子どもたちは少なくとも今回の考古学教室で歴史を身近に感じてくれたし、地域の歴史を見つめ直すいい機会を与えることができたと思う。その証拠に身近な遺跡の説明や遺物を直に触らすことで、子どもたちの目の輝きが違ってみえたし、そのような感想文が多かった。

反省する点として、土器等の展示については十分な準備の時間をもって、展示見学が安全にできるよう展示機の点検も必要であった。火起こしについては、軽い怪我をした子どもたちもいたが、途中で道具の工夫を行い安全対策をしたことはよかった。道具の工夫をして以降は、怪我人はでなかったので初日から考えておけばよかった。介良小学校から、調査員は名札をつけてもらったほうが子どもたちに名前を覚えてもらうことができるということで要望があった。さっそく名札をつくり、介良小学校の次学校から調査員すべてが名札を付けるようにした。

21世紀の主人公である子どもたちに、地域の歴史を見直しひとつひとつの地域、そこに生きている人間を大切にすることが将来のよりよい日本を造っていく源であることを知ってもらいたい。全国に先駆けて、出前考古学教室を開催している本県は、さらなる工夫を行い継続の中にも新たな発想で、子どもたちのニーズや各学校の教職員との連携の中で埋文情報を如何に学校教育の中に合致させていくかを模索しなければならない。

表15 平成12年度出前考古学教室実績

No.	実施日	郡名	市町村名	学校名	授業クラス			担当職員数	備考
					数	人数	人数		
1	5/8(月)	土佐郡	土佐町	田井小学校	2	74	100	4	3校合同・高知新聞取材・町教委
2	5/9(火)	土佐郡	大川村	船戸小学校	1	12	24	4	2校合同・大川中学校
3	5/11(木)	安芸郡	奈半利町	奈半利小学校	1	33	66	5	
4	5/12(金)	室戸市		室戸小学校	2	48	273	5	高知新聞取材
5	5/15(月)	高岡郡	葉山村	葉山小学校	1	19	92	5	村教委
6	5/16(火)	高岡郡	大野見村	大野見小学校	1	18	73	5	2校合同
7	5/17(水)	香美郡	土佐山田町	片地小学校	1	29	86	5	町教委・保護者
8	5/18(木)	土佐市		蓮池小学校	2	48	233	6	
9	5/19(金)	高知市		小高坂小学校	2	67	180	8	高知市教育次長参観・保護室
10	5/22(月)	須崎市		浦ノ内小学校	1	11	58	5	
11	5/23(火)	高岡郡	禰原町	禰原小学校	1	39	142	5	4校合同
12	5/25(木)	高知市		一ツ橋小学校	2	74	140	8	
13	5/26(金)	香美郡	赤岡町	赤岡小学校	1	30	157	5	
14	5/29(月)	幡多郡	大方町	田ノ口小学校	1	12	33	5	
15	5/30(火)	〃	〃	入野小学校	1	38	220	5	読売取材
16	5/31(水)	宿毛市		宿毛小学校	3	90	147	5	宿毛市教育長参観・宿毛歴民
17	6/1(木)	安芸市		穴内小学校	1	19	53	4	
18	6/5(月)	幡多郡	西土佐村	川崎小学校	1	32	61	5	4校合同・村教委
19	6/6(火)	中村市		八東小学校	1	17	89	5	
20	6/7(水)	〃		東山小学校	2	41	41	5	
21	6/8(木)	安芸市		土居小学校	1	34	152	6	保護者・安芸歴民
22	6/9(金)	香美郡	香我美町	香我美小学校	2	47	131	5	
23	6/13(火)	高知市		横浜新町小学校	4	134	304	9	保護室
24	6/15(木)	長岡郡	本山町	本山小学校	2	49	200	5	3校合同
25	6/16(金)	高知市		昭和小学校	3	100	160	9	保護者
26	6/19(月)	吾川郡	春野町	東小学校	2	79	304	5	
27	6/20(火)	高知市		高須小学校	4	148	200	9	
28	6/22(木)	香美郡	香我美町	岸本小学校	1	10	70	5	保護者・町教委
	合計			28校	47	1,352	3,789		

表16 平成13年度出前考古学教室実績

No.	実施日	郡名	市町村名	学校名	授業クラス			担当 職員数	備 考
					数	人数	人数		
1	5/8(火)	安芸郡	田野町	田野小学校	1	33	190	8	
2	5/9(水)	香美郡	野市町	佐古小学校	2	40	220	7	
3	5/10(木)	吾川郡	伊野町	枝川小学校	2	63	123	5	
4	5/11(金)	土佐郡	鏡村	鏡小学校	1	15	91	5	高知新聞
5	5/15(火)	高 知 市		介良小学校	2	81	181	5	
6	5/17(木)	安芸郡	馬路村	馬路小学校	1	14	51	5	
7	5/18(金)	安芸郡	北川村	北川小学校	1	11	22	5	
8	5/21(月)	高 知 市		昭和小学校	2	80	185	5	
9	5/22(火)	香美郡	香北町	大宮小学校	1	37	109	6	
10	5/24(木)	高岡郡	窪川町	東又小学校	1	17	79	5	町教委から遺物借用
11	5/25(金)	幡多郡	佐賀町	佐賀小学校	1	16	150	5	
12	5/28(月)	高岡郡	仁淀村	長者小学校	1	10	59	5	
13	5/29(火)	吾川郡	吾北村	清水第一小学校	1	8	20	5	
14	5/31(木)	香美郡	物部村	大柝小学校	1	12	62	5	
15	6/1(金)	高 知 市		鴨田小学校	5	169	169	8	高知市から遺物借用
16	6/4(月)	高 知 市		横内小学校	3	85	175	7	保護室3名 松山市3名 見学
17	6/5(火)	高 知 市		潮江小学校	2	70	79	6	
18	6/7(木)	幡多郡	三原村	三原小学校	1	35	123	5	町教委・文化財保護委員 遺物借用
19	6/8(金)	幡多郡	大月町	弘見小学校	1	33	168	5	柏島小学校10名参加 町教委
20	6/14(木)	高 知 市		三里小学校	2	72	192	6	
21	6/15(金)	高岡郡	日高村	日下小学校	1	47	245	6	
22	6/18(月)	高岡郡	窪川町	岩井川小学校	1	6	23	5	町教委から遺物借用
23	6/19(火)	宿 毛 市		小筑紫小学校	1	26	116	5	市教委から遺物借用
24	6/20(水)	中 村 市		東山小学校	1	34	75	5	市教委から遺物借用
25	6/21(木)	安 芸 市		井ノ口小学校	1	19	130	5	
26	6/29(金)	高 知 市		追手前小学校	1	27	87	5	保護室見学
	合計			26校	38	1,060	3,124		

表17 平成14年度出前考古学教室実績

No.	実施日	郡名	市町村名	学校名	授業クラス			担当 職員数	備 考
					数	人数	人数		
1	5/8(水)	高 知 市	第四小学校	1	35	149	8	NHK他の取材あり	
2	5/9(木)	高岡郡	中土佐町	久礼小学校	2	49	132	6	
3	5/10(金)	香美郡	土佐山田町	舟入小学校	1	30	92	5	
4	5/13(月)	土 佐 市	蓮池小学校	1	36	56	5		
5	5/14(火)	吾川郡	池川町	池川小学校	1	15	85	5	
6	5/16(木)	室 戸 市	元小学校	1	18	90	5		
7	5/20(月)	南 国 市	岡豊小学校	2	47	240	6	保護者4～5名が参加	
8	5/21(火)	高岡郡	佐川町	斗賀野小学校	1	31	146	5	
9	5/23(木)	高 知 市	介良潮見台小 学校	3	81	81	7		
10	5/24(金)	土 佐 市	新居小学校	1	16	53	5	地域の人3～5人見学, 火起こし参加	
11	5/27(月)	土佐郡	土佐山村	土佐山小学校	1	13	59	5	
12	5/28(火)	高 知 市	朝倉小学校	2	75	95	7	午後は考古学に関する質 問を受ける	
13	5/29(水)	高岡郡	窪川町	仁井田小学校	1	14	36	5	
14	5/30(木)	土 佐 清 水 市	養老小学校	1	8	8	5		
15	5/31(金)	〃	足摺岬小学校	1	11	32	5		
16	6/3(月)	高 知 市	浦戸小学校	1	11	33	5		
17	6/6(木)	長岡郡	本山町	本山小学校	1	25	105	5	2校合同
18	6/7(金)	長岡郡	大豊町	大杉小学校	1	34	139	6	4校合同
19	6/10(月)	南 国 市	稲生小学校	1	22	92	5		
20	6/12(水)	高岡郡	葉山村	精華小学校	1	24	71	5	2校合同
21	6/13(木)	中 村 市	八束小学校	1	23	82	5		
22	6/14(金)	宿 毛 市	大島小学校	1	33	215	5		
23	6/18(火)	安芸郡	東洋町	甲浦小学校	2	48	130	5	自由参観日で、町教委を 含め見学
24	6/20(木)	幡多郡	大正町	大奈路小学校	1	6	48	5	午後 大奈呂中学校
25	6/21(金)	幡多郡	大方町	大方町連合	2	64	64	5	あかつき館で実施
26	6/24(月)	高 知 市	大津小学校	4	128	128	8		
27	6/27(木)	南 国 市	長岡小学校	2	47	80	6		
	合計				38	944	2,541		

(5) 研究会等

平成14年度に埋蔵文化財センターの職員が、講師として依頼を受けた講演会や県外で開催された各種研究会にも職員が発表者としての依頼を受けた講演会や研修会は表18のとおりである。今後は、埋蔵文化財センターが主催する研究会や講演会を積極的に開催し多くの方々に参加していただけるように努めたい。

表18 平成14年度講演会・研修会等講師派遣

月日	派遣職員	講座名・講演題	参加人員	主催者	備考
4月21日	曾我貴行	「速報展『居徳人骨』展示解説」	51	高知県立歴史民俗資料館	
4月25日	曾我貴行	「速報展『居徳人骨』展示解説」	10	〃	県議会視察
5月3日	曾我貴行	「速報展『居徳人骨』展示解説」	53	〃	
5月1日	曾我貴行	『土佐市中央女性学級』 「速報展『居徳人骨』展示解説」	30	土佐市中央公民館	
5月28日	曾我貴行	『県文化財保護指導者講習』 「居徳遺跡について」	80	文化財課	
7月4日	曾我貴行	「土佐市の遺跡—最近の調査成果から—」	100	高岡地区文化財保護連絡協	
〃	調査第1班	出前考古学教室	〃	〃	
7月7日	曾我貴行	『日本文化財科学会大会』 「高知県居徳遺跡群出土の人骨にみられる人為的損傷」(共同発表)	250	日本文化財科学会 明治大学	
7月15日	調査第5班	出前考古学教室	140	第六小学校	
7月29日	調査第1班	『夏休み子供教室』	20	南国市教育研究所	
8月11日	出原恵三	『春野町研修会』 「西分増井遺跡の発掘調査成果から」	50	春野町	
9月12日	松田直則	『西部地区文化振興会議』 「出前考古学教室について」	100	島根県教育委員会 文化庁	
11月15日	調査第1班	出前考古学教室	100	介良小学校	
11月16日	松村信博	「チャレンジ！縄文人」	25	安芸市立歴史民俗資料館	
12月1日	山本哲也	特別展『土佐の先史文化交流』 「安芸の黎明—原始から古代へ—」	20	安芸市立歴史民俗資料館	
12月17日	調査第2班	出前考古学教室	20	江の口養護学校	
1月15日	曾我貴行	『市民高齢者教室』 「居徳遺跡について—最新の調査成果から—」	90	高知市文化事業団	
1月30日	曾我貴行	『名古屋大学タンデロン加速器質量分析計シンポジウム』 「南四国における縄文から弥生—高知県居徳遺跡群—」	70	名古屋大学	
1月31日	調査第1班	出前考古学教室	15	朝倉中学校	



#### 4. 研修事業他

埋蔵文化財センターの研修事業には、埋蔵文化財センターの新規職員と市町村文化財担当職員を対象とした一般研修(表19)、職員専門研修(表21)、情報交換会等(表22)の主催事業と独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財センター等の研究機関等(表23)が主催する研修への参加がある。平成14年度の一般研修は4月15日から24日まで実施し埋蔵文化財発掘調査に関する基本的な講義と実習を行い7名の参加があった。職員専門研修は、外部講師を招聘し考古学分野と関連分野の研修を行うものでセンターの職員のみならず市町村文化財担当者も参加し研修を受けた。情報交換会は、職員専門研修のない隔月に開催した。

表19 平成14年度発掘調査研修日程表

	研 修 項 目		備 考
	午 前	午 後	
4月15日(月)	文化財保護行政(文化財保護課)	発掘調査(下村)	
4月16日(火)	旧石器時代(松村)	縄文時代(前田)	
4月17日(水)	写真(曾我)	遺物実測Ⅰ(前田・松村)	石器
4月18日(木)	測量(藤方)	整理作業(筒井)	
4月19日(金)	弥生時代(坂本・田中)	遺物実測Ⅱ(坂本・田中)	土器
4月22日(月)	古墳時代(曾我・久家)	遺物実測Ⅲ(曾我・久家)	須恵器
4月23日(火)	古代(田中・下村)	歴民見学(田中・下村)	
4月24日(水)	中・近世(筒井・浜田)	遺物実測Ⅳ(筒井・浜田)	陶磁器

(氏名)は研修担当講師

表20 平成14年度市町村埋蔵文化財担当職員研修

No.	市 町 村	氏 名	所 属
1	室 戸 市	和 田 庫 治	室戸市教育委員会
2	本 山 町	伊 藤 直 也	本山町中央公民館事務局
3	吾 川 村	岡 林 照 壽	吾川村教育委員会
4	野 市 町	久 家 英 生	野市町教育委員会
5	西 土 佐 村	浦 宗 康	西土佐村教育委員会
6	十 和 村	林 久 須 男	十和村教育委員会
7	土 佐 市	寺 川 顕	土佐市教育委員会

表21 平成14年度職員専門研修

No.	研 修 内 容	開 催 日	講 師	所 属
1	須恵器について	平成14年7月18・19日	中 村 浩	大谷女子大学
2	遺物の保存と復元について	平成14年11月11・12日	澤 田 正 昭	奈良文化財研究所

表22 平成14年度職員情報交換会

No.	研 修 内 容	年 月 日	担 当
1	調査概要報告—久木ノ城跡・遺跡 神ヶ谷2号窯跡—	平成14年4月12日	下 村 裕
2	「居徳人骨」の近況報告	平成14年6月5日	曾 我 貴 行
3	弥生時代の打製石鏃について	平成15年1月27日	久 家 隆 芳
4	高知平野西部の弥生後期土器	平成15年1月27日	出 原 恵 三

表23 平成14年度独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財センター研修

No.	参 加 研 修 名	期 間	参 加 者
1	一般過程	平成14年6月18日～7月26日	田 中 耕 輔
2	中近世城郭調査過程	平成14年9月26日～10月3日	今 田 充

表24 平成14年度会議参加一覧表

No.	参 加 会 議 等	日 時	参 加 者
1	平成14年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピューター等研究委員会 中国・四国・九州ブロック地区委員会(愛媛県)	平成14年9月5・6日	廣田 佳久 下村 裕
2	平成14年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(石川県)	平成14年10月17・18日	大野佳代子
3	平成14年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(福岡県)	平成14年10月24・25日	田中 涼子
4	平成14年度四国埋蔵文化財法人実務担当者会(愛媛県)	平成14年11月7・8日	山本 哲也

表25 平成14年度見学者受け入れ1

年 月 日	見学場所	見学者名	見学者数	備 考
平成14年4月	埋文センター		22	常設展
5月12日	埋文センター		10	神戸市埋蔵文化財センター
5月14日	埋文センター	正木 信邦	10	中村市
5月30日	埋文センター		26	南国市立久礼田小学校6年生
5月	埋文センター		11	常設展
6月12日～	埋文センター 松の木遺跡他		2	(財)徳島県埋蔵文化財センター
6月20日	埋文センター		40	葉山村立白石・精華小学校
6月	埋文センター		13	常設展
7月13日	埋文センター		6	高知大学生
7月29日	埋文センター		20	南国市教育研究所(夏休み子供教室)
7月	埋文センター		16	常設展
8月9日	埋文センター	黒石	1	(財)和歌山県文化財センター
8月14日～	埋文センター	渡辺智恵美	1	(財)元興寺文化財研究所
8月22日～	埋文センター 船戸遺跡他	幸泉 満夫	1	(財)徳島県埋蔵文化財センター

表26 平成14年度見学者受け入れ2

年 月 日	見学場所	見学者名	見学者数	備 考
8月30日	埋文センター	門田・小林	2	安芸市立歴史民俗資料館
8月	埋文センター		245	企画展
9月4日	埋文センター	谷口・長塚	2	葛飾区教育委員会 馬の博物館
9月19日	埋文センター	工藤 正樹	1	福島大学教授
9月24日	埋文センター	澤下 孝信	1	下関市立考古博物館
9月	埋文センター		170	企画展
10月4日	埋文センター		48	須崎市立横浪小学校5・6年生
10月5日	埋文センター	山脇 一夫	20	くろしお進学塾大津塾
10月22日	空港		60	高知市立三里小学校
10月	埋文センター		229	企画展
11月7日	土佐市		5	高知市立西部中学校2年生
11月8日	埋文センター			
11月13日	埋文センター (体験学習)		7	高知県立追手前高等学校
11月25日	埋文センター		15	香我美町立岸本小学校
11月	埋文センター		16	常設展
12月9日	埋文センター	栗林 誠治	1	(財)徳島県埋蔵文化財センター
12月	埋文センター		22	常設展
平成15年1月	埋文センター		17	常設展
2月21日	埋文センター	伊吹総太郎	18	野市町楽々会
2月26日	高知城	滝川 重徳	1	石川県教育委員会文化財課
2月	埋文センター		36	常設展
3月13日	埋文センター		33	南国市立大篠小学校6年生
3月	埋文センター		24	常設展
	合 計		1152	

## 5. 埋蔵文化財センター施設

埋蔵文化財センターは、本館と収蔵庫が増設され平成13年12月4日に新しい施設となった。調査資料などの保管・管理並びに広報普及事業について十分な機能を発揮することができ、県民を始め多くの方々に情報提供できる場所となった。ここでは、新しくなった収蔵庫と本館を中心に紹介する。センター本館1階は、常設展示室と研修室、事務室、特別収蔵庫があり、特別収蔵庫は常温・常湿の設備で金属製品・木製品を保管できる。本館2階は、調査員室・所長室・図書・図面保管室・写真保管室・情報管理室がある。図書・図面保管室は、報告書等の書籍約100,800冊とA1図面ファイル3,340冊・A2ファイル5,040冊収納できる。写真保管室は、写真ファイル9,472冊を収納でき、その他情報管理室ではWeb公開しているデータベースを置いている公開サーバや職員が作成したデータをバックアップするファイルサーバなどが配備されている。出土遺物の保管施設としての収蔵庫は、重量鉄骨構造平屋建であるが3層積層収蔵棚を設置しコンテナ30,000箱を収蔵できる施設である。その他施設の概要は次のとおりです。

所在地：高知県南国市篠原南泉1437-1

敷地面積：4,203㎡

建物構造：本館・北館・南館...重量鉄骨構造2階建

収蔵庫.....重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積：2,073.65㎡

(本館：617.02㎡ 北館：263.12㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡)

延床面積：4,073.54㎡

(本館：1,037.11㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,472.11㎡)

事業費：650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

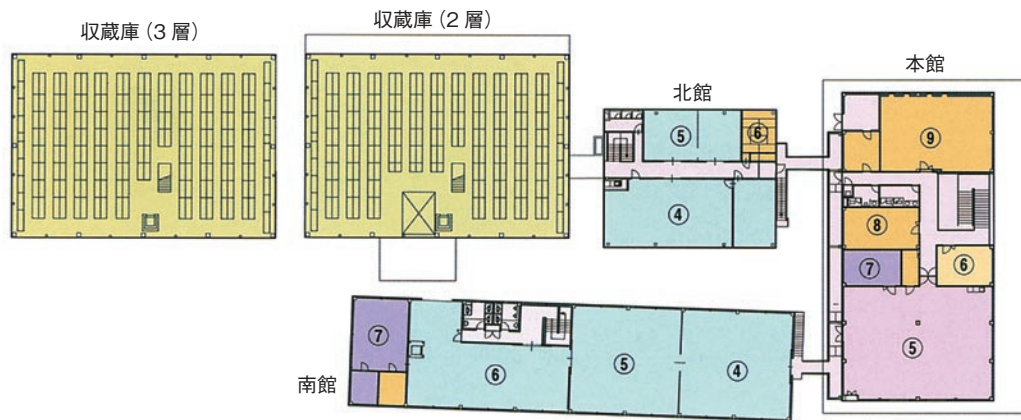


図7 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

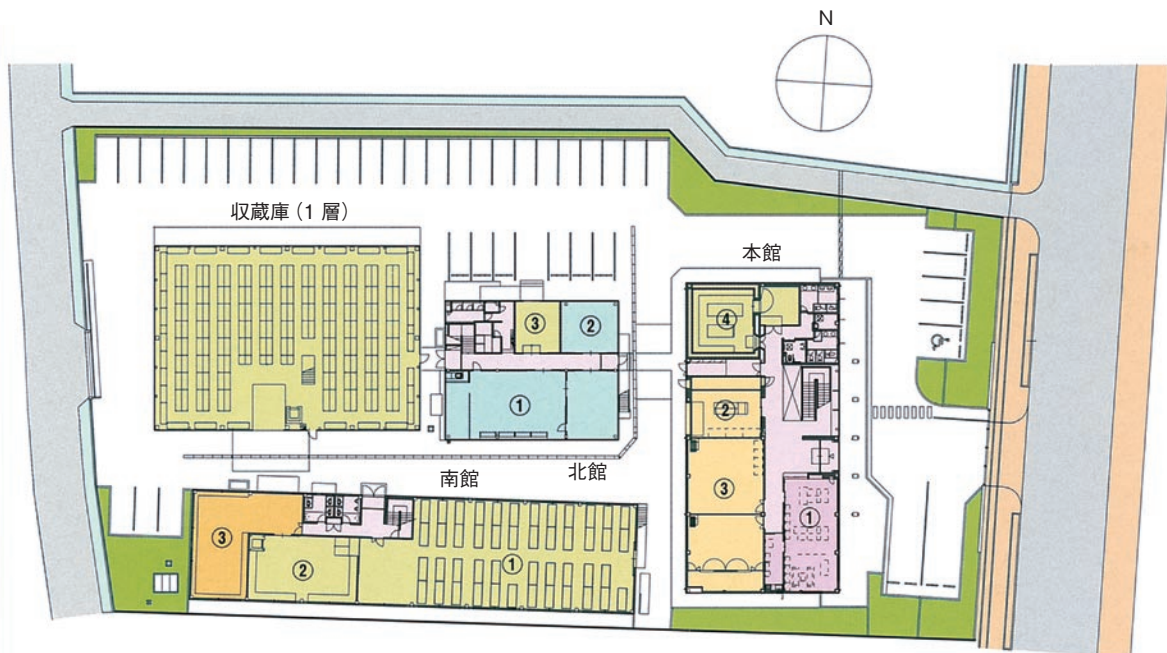


図8 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

表27 本館施設面積

本館 1 階		本館 2 階	
室名	面積	室名	面積
① 事務室・所長室	83.82m <sup>2</sup>	⑤ 調査員室	194.38m <sup>2</sup>
② 展示室	51.63m <sup>2</sup>	⑥ 会議室	25.18m <sup>2</sup>
③ 研修室	131.43m <sup>2</sup>	⑦ 情報管理室	30.38m <sup>2</sup>
④ 特別収蔵庫	78.28m <sup>2</sup>	⑧ 写真保管室	38.38m <sup>2</sup>
玄関ホール他	173.88m <sup>2</sup>	⑨ 図書・図面保管室	100.44m <sup>2</sup>
		階段・通路他	129.31m <sup>2</sup>
合計	519.04m <sup>2</sup>	合計	518.07m <sup>2</sup>

表28 収蔵庫各層面積

収蔵庫	面積
1層	528.60m <sup>2</sup>
2層	462.48m <sup>2</sup>
3層	481.03m <sup>2</sup>
合計	1,472.11m <sup>2</sup>

表29 南館施設面積

南館 1 階		南館 2 階	
室名	面積	室名	面積
① 復元収蔵庫	303.89m <sup>2</sup>	④ 整理作業室1	131.10m <sup>2</sup>
② 仮収蔵庫	81.03m <sup>2</sup>	⑤ 整理作業室2	131.10m <sup>2</sup>
③ 機材庫	92.39m <sup>2</sup>	⑥ 洗浄整理室	143.83m <sup>2</sup>
階段・通路他	46.45m <sup>2</sup>	⑦ 撮影室	56.10m <sup>2</sup>
		階段・通路・倉庫	60.03m <sup>2</sup>
合計	523.76m <sup>2</sup>	合計	522.16m <sup>2</sup>

表30 北館施設面積

北館 1 階		北館 2 階	
室名	面積	室名	面積
① 洗浄整理室	129.60m <sup>2</sup>	④ 整理作業室2	129.60m <sup>2</sup>
② 整理作業室1	32.40m <sup>2</sup>	⑤ 整理作業室3	55.89m <sup>2</sup>
③ 仮収蔵庫	25.92m <sup>2</sup>	⑥ 休養室	19.44m <sup>2</sup>
階段・通路他	71.28m <sup>2</sup>	階段・通路他	54.27m <sup>2</sup>
合計	259.20m <sup>2</sup>	合計	259.20m <sup>2</sup>

## IV 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 春野町 西分増井遺跡群(02-2HN)

1. 所在地 高知県吾川郡春野町西分字成岡・中央
2. 立地 自然堤防
3. 時代 縄文～中世
4. 調査期間 平成14年4月1日～平成14年10月10日
5. 調査面積 3,510㎡
6. 担当者 出原恵三
7. 調査内容 西分増井遺跡群は、仁淀川流域における縄文時



代後期から弥生時代、古墳時代前期の中心的な集落址として知られていたが、昨年の調査で銅鐸、銅矛、銅戈など多種多量の青銅器片や、2,000点近い鉄器及び鉄片が出土したことで俄に注目される遺跡となった。本年は、3地点、1,000㎡の調査を実施し、新たに竪穴住居9棟、土坑11基を検出した。竪穴住居の1棟は弥生時代後期、他は古墳時代前期初頭に属する。平面形と規模は前者が隅丸方形で小型、後者は方形で大型であり、時代による竪穴住居の構造変化をたどることができる。弥生時代後期の住居床面からは、まとまった土器が出土している。これらの土器には櫛描文の施されたものが見られ、田村遺跡など物部川流域の土器とは特徴を異にしており、同じ高知平野の中でも西と東とでは地域差の存在することを示しており興味深い現象である。

古墳時代の住居には、床面を二段に形成したベッド状遺構をもったものが多く、床面中央には楕円形の炉が掘り込まれており、周辺には炭の広がりが見られる。床面や埋土中から大量の土器の出土した住居が存在し、しかもこれらの土器には接合関係にあるものが多い。このことは、これらの土器が住居の廃絶後に自然堆積によって埋まったものではなく、廃絶に伴って意識的な行為として土器が据え置かれ、埋め戻しの行われていたことを示している。西分増井遺跡群は、古墳時代前期に集落が一旦途絶えしまうことから集落の廃絶、撤去に伴う祭祀と考えられる。

西分増井遺跡群からは、過去2回の調査を含めて41棟の竪穴住居が検出された、仁淀川流域における拠点集落址として捉えることができよう。昨年の調査成果とも相まって、田村遺跡群とはかなり性格の異なる集落像を想定しなければならない。このことは高知平野西部だけでなく南四国の弥生集落の展開を理解する上で今後重要な位置を占めることになる。



写真8 西分増井遺跡古墳時代初頭の竪穴住居跡

## 2. 野田遺跡(02-3TN)

1. 所在地 土佐市高岡町野田
2. 立地 仁淀川右岸自然堤防
3. 時代 古代～近世
4. 調査期間 平成14年5月13日～6月17日  
平成14年10月31日～平成15年2月28日
5. 担当者 廣田佳久, 田中耕輔, 籠尾泰輔, 田中涼子
6. 調査面積 2,118㎡



7. 調査内容 野田遺跡は昭和49年の道路工事の際に発見された縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、土佐市バイパス建設に伴って平成12年度から発掘調査が実施されている。平成12年度は県道土佐伊野線の西側の調査を行い、13世紀～15世紀の溝によって区画された屋敷跡を検出しており、ホノギの「土居」とも一致する。また、土坑からは14世紀後半～15世紀とみられる「山水双鳥鏡」(和鏡)も出土した。平成13年度は県道土佐伊野線の東側の水路付け替え部分と仮設道路部分(約10m幅)の本調査を行い、平成12年度と同様な中世の屋敷跡を検出している。また、古代(8～10世紀)の遺物包含層を確認し、瓦等が出土しているほか、礎石も確認しており、寺院跡の可能性が示唆された。今回の調査は平成13年度の調査区の北東部にあたり、古代の瓦が多量に出土した地点に隣接する。

中世・近世についてはこれまでの調査と同様な掘立柱建物跡や溝跡などが確認され、平成12年度の調査で確認された屋敷地が更に東に拡がるのが判明した。今回の調査区の西側には県道土佐伊野線に沿って用水路が流れており、地形の高い用水路を中心に東西に集落が広がっていたものと考えられる。古代については、多量の瓦や、搬入品とみられる土師器の盤、緑釉陶器、鉄滓などが出土していることから、明らかに集落とは異なると考えられ、寺院跡の存在をさらに肯定することとなった。遺構については調査区の東部と西部で埋土に瓦を多量に含む南北に走る溝跡を確認しており、その間約53mを測る。いずれも幅約60cm程度の細いものであるが、瓦が多量に出土していることや、これらの溝の間で古代の遺物や遺構が多く検出されていることから、寺院跡の東限と西限と考えられる。また、すべての柱穴に径50cm程度の根石を有する掘立柱建物跡1棟を確認したほか、昨年度検出した礎石2基と並ぶ位置に更に礎石3基を確認した。これらの遺構は調査区北半に集中しており、寺域は北に拡がるものとみられる。この寺院跡は高岡郡で初めて確認された古代寺院跡であり、寺院に伴う建物跡を確認できたことは非常に大きな成果である。



写真9 野田遺跡遺物出土状況

### 3. 京間遺跡(02-4TK)

1. 所在地 土佐市高岡町京間
2. 立地 仁淀川右岸自然堤防
3. 時代 中世～近世
4. 調査期間 平成14年6月26日～10月30日
5. 担当者 廣田佳久, 田中耕輔, 籠尾泰輔, 田中涼子
6. 調査面積 3,616㎡
7. 調査内容 京間遺跡は平成12年度に行われた土佐市バイパス建設に伴う試掘調査によって確認された遺跡であり, 平成12年度より本調査を行っている。平成12年度に実施した調査は京間遺跡の南部にあたり, 仮設道路部分(幅約10m)の調査を行い, 中世(13～16世紀)と近世(17～19世紀)の遺構・遺物が確認されている。平成13年度には平成12年度調査部分の東側と西側, 北側の調査を行い, 特に北側では柱穴や溝跡などの遺構が非常に多く, 隣接する野田遺跡と同様な溝で区画された屋敷跡が確認された。また, 中世の宋銭を伴う屋敷墓や, 近世においては石組みの井戸を確認したほか, 近世初期の肥前系陶磁器なども出土している。



本年度の調査区は昨年度の北側で, 京間遺跡の北西部にあたる。調査区東部では遺構の密度が高く, 中世・近世のピットや土坑を多く検出しており, 出土遺物には土師質土器, 瓦器, 青磁, 青花, 常滑焼, 瓦質土器, 近世初期の肥前系陶磁器など多様なものが見られ, 集落の存続期間も比較的長いものと考えられる。また, 屋敷跡とみられる部分で, 簡易な窯跡を数基検出している。この窯跡は平地式で, だるま形を呈しており, 焼土と炭化物を伴っていた。残存状態の良好なもので全長1.30mを測り, 天上部は削平されているが比較的低いものと推測される。焼成温度はさほど高くないものとみられ, 屋敷内で検出されていることや, 隣接する野田遺跡でも同様な窯跡が確認されており, 日常的な簡易なものと考えられる。これらの窯跡からの出土遺物は少なく, 用途や時期など今後検討すべき課題は多い。

また, 京間遺跡の西端部にあたる部分では, 若干地形が低く, 建物跡などの遺構は少ない。ここでは, 近世の畝状遺構を検出していることや, 中世においても細い溝が配されていること, 遺物が少ないことなどから, 水田や畠といった生産域として利用されていた可能性が考えられる。中世・近世を通して地形の高い所に屋敷跡, 地形の低い縁辺部では, 生産域として利用していたことが伺われる。このような様相は隣接する野田遺跡や光永・岡ノ下遺跡などの自然堤防に立地する遺跡や, 残丘裾部に立地する天神遺跡などでもみられ, 土佐市における中世集落の一つのあり方といえる。

また, 京間遺跡の西端部にあたる部分では, 若干地形が低く, 建物跡などの遺構は少ない。ここでは, 近世の畝状遺構を検出していることや, 中世においても細い溝が配されていること, 遺物が少ないことなどから, 水田や畠といった生産域として利用されていた可能性が考えられる。中世・近世を通して地形の高い所に屋敷跡, 地形の低い縁辺部では, 生産域として利用していたことが伺われる。このような様相は隣接する野田遺跡や光永・岡ノ下遺跡などの自然堤防に立地する遺跡や, 残丘裾部に立地する天神遺跡などでもみられ, 土佐市における中世集落の一つのあり方といえる。

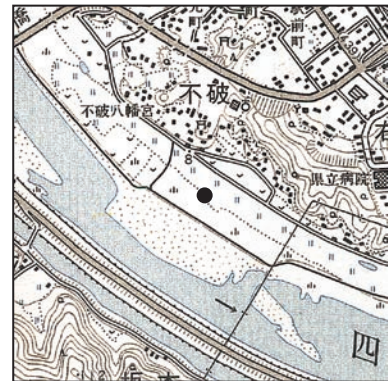


写真10 京間遺跡全景



## 4. 不破遺跡(02-5NF)

1. 所在地 中村市不破
2. 立地 四万十川左岸の低位河岸段丘
3. 時期 近代
4. 調査期間 平成14年10月15日～平成15年1月15日
5. 調査面積 2,646㎡
6. 担当者 廣田佳久・中山真司・下村裕
7. 調査成果 本遺跡は秋の大祭で有名な不破八幡宮の南，中村



市不破に所在し，四万十川の左岸の低位河岸段丘上に立地する中世を中心とした遺跡である。今回の発掘調査は，国土交通省が計画している高規格道中村宿毛道路の建設に伴い，橋脚予定地の部分について発掘調査を行った。

本調査で確認されたものは四万十川の流に沿った畝状の遺構である。この畝間には耕作層と考えられる土層が3層確認され，畝間で耕作を行っていたものとみられる。これらの畝状の遺構は昭和8年以降，エキスカベーターと呼ばれた機械で不破から土砂を採取し，対岸にある中筋川の流を変えさせるための背割堤防や入田の堤防を築くために掘削された際の痕跡であり，この工事は当時暴れ川として有名であった中筋川の流を本流である四万十川の下流に流し，四万十川からの逆流現象を防ぐために行われたものであった。その工事の犠牲になったのが不破であり，当時対岸の背割堤防まで広がっていた不破の土地は激減するとともに，耕地面積は極端に狭くなった。本調査区の東側で行った試掘調査では，土師質土器が出土しており，不破八幡宮の存在からみても，本遺跡周辺には中世に集落が形成されていたことが推察されるが，中世の遺構もその際に大半が破壊されたものと考えられる。このエキスカベーターと呼ばれる掘削機械による土砂採取工事が行われた結果，本調査区で確認された畝状の遺構が残されたのであるが，この畝間で確認された耕作層は土砂採取の結果荒れ果てた土地となった不破において，作物を作ろうとした痕跡と考えられる。しかし，不破は洪水のたびに浸かる場所であったため，耕作層の間には砂が厚く堆積しており，洪水に悩まされながらも少ない耕地で耕作を続けていたものとみられる。

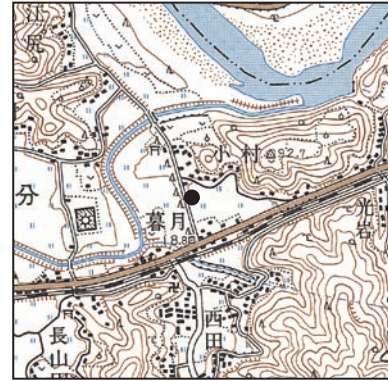


写真11 不破遺跡全景

今回の調査では戦前の耕作面が確認されたが，これは中村における大土木工事であった中筋川の河川改修工事に伴い耕作地を奪われた人々の努力の結果と考えられる。このことは薄れかけていた当時の記憶を甦らせ，戦前の中村市の歴史ひいては不破の歴史を再認識させるものであり，あまりにも身近すぎて忘れられていく歴史を知るうえで，貴重な成果だと考えられる。

## 5. 千本杉遺跡(02-7HS)

1. 所在地 高岡郡日高村小村
2. 立地 沖積地
3. 時代 古代・中世・近世
4. 調査期間 平成14年9月6日～11月8日
5. 調査面積 376㎡
6. 担当者 今田 充・久家隆芳
7. 調査内容 県道庄田伊野線緊急地方道路整備事業に伴う



発掘調査である。千本杉遺跡は仁淀川に日下川が合流する地点に位置する。日下川は現在の佐川町、日高村を流れており、高低差が少なく運河的な利用が考えられ、物資流通に関して非常に重要である。また、調査区に隣接して土佐二ノ宮である小村神社が鎮座している。小村神社は国宝にも指定されている古墳時代の大刀を御神体としている。近年、境内から銅矛が偶然発見されている等、当社の重要性を伺うことができる。

今回の調査ではピット・土坑・溝跡等の多くの遺構を検出したが、調査区の幅が狭く、個々の遺構を位置づけることは難しい。柱穴と考えられるピットが多数存在することから、多くの掘立柱建物跡が展開していたことが推測できる。ピットでは長径約0.8m、短径0.6m、深さ0.7mを測る規模の大きいものも検出されている。溝跡は現在の参道とほぼ直交し、心々距離が半町を測るものもあり、当時の土地割りを復原するうえで重要である。

出土遺物は、大きく古代・中世前期・中世後期・近世のものである。なかでも、中世前期に属するものが最も多い。土師質土器、瓦器、常滑焼、備前焼、瀬戸・美濃系、青磁、白磁、東播系須恵器、染付が出土しており、中世を通じて貿易陶磁器、日常雑器とも継続的に供給されている。上述のような流通に有利な場所に立地していることによるものと考えられる。また、遺構では明確に検出できなかったが、スラグ・スサ入り粘土塊が出土しており、周辺で鍛冶が行われていたと推測される。

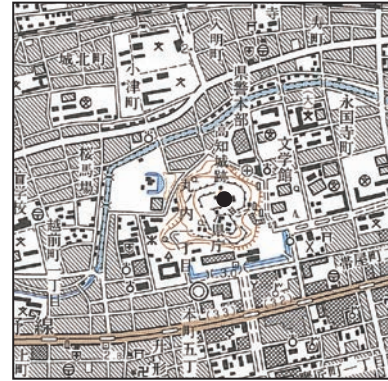
さて、小村神社には棟札が残されている。1347年(貞和3年)、地頭職(藤原国藤)・神官・社僧・氏子らの私財協力により造営されたことが記されている。出土遺物の最盛時期と概ね一致しており、調査区に展開する遺構を理解するうえで貴重な史料である。このことも含め、当遺跡は小村神社と有機的な関係を有していると推定される。



写真12 千本杉遺跡空中写真

## 6. 高知城本丸石垣調査(02-9KK)

1. 所在地 高知市丸ノ内
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 中世～近世
4. 調査期間 平成14年8月1日～平成15年2月28日
5. 調査面積 200㎡
6. 担当者 松田直則・大野佳代子・今田 充
7. 調査内容 高知市丸の内に所在する国史跡高知城跡は、本



丸石垣整備事業に伴い事前に記録保存をおこなうことを目的として発掘調査を実施している。平成14年度の調査は、昨年度から引き続き高知城本丸南石垣の解体に伴う調査と積み直し作業をおこなった。高知城の石垣は、慶長8年に滋賀の石垣穴太集団の北川豊後貞信によって構築されたと「御城築記」という文献で明らかになっている。ちなみに北川豊後貞信は、山内一豊に公儀穴太の百石より多い百五十石の破格の禄高で招聘されている。今回実施している石垣解体に伴う調査で、慶長年間に構築されたと考えられていた本丸南石垣の解明が進んだ。昨年度の解体に伴う調査では、石垣上部は慶長年間以降積み替えが行われていることが明らかになった。さらに今年度は、石垣裏ゴメからの出土遺物や、盛土の堆積状況などから積み替え時期やその範囲を絞り込むことを目的に調査を実施した。

本丸南石垣は、調査前の状況として石垣西端部から東端部にかけて天端ラインが曲線を描いており、構築時から曲線にしようとして北川豊後貞信は考えて構築したのではないかとの推測がなされていた。石垣の解体が進むにつれてこの曲線のラインが解消され直線のラインが現れはじめた。石垣天端石から3段目辺りから曲線ラインが消え始め、3カ所で折れをもった直線ラインが確認できた。これらのことから、石垣構築には直線的な縄を張り石垣を築いたことがわかった。北川豊後は穴太達の棟梁として「万端法之通り」築いたと「従先祖勤事覚」という文献資料に記載されていることから、やはり石垣構築の基本を踏襲していることもわかった。



写真13 高知城跡空中写真

石垣の裏ゴメと盛土の状況を把握するため、数カ所で断面図を作成した。この断面の裏ゴメと盛土の土層観察から、今回の石垣解体部分ではこれまでに3~4回の積み替えが行われていることがわかった。今後裏ゴメや盛土から出土した遺物の整理が進めば明確な改修時期とその範囲が解明できる可能性もある。天端石から8段下がった慶長8年構築石部分と考えられる裏ゴメと盛土の境から軒丸瓦の破片が出土した。瓦当部の文様をみると、織豊期から江



写真14 高知城跡石垣解体後全景

戸初期瓦の特徴を持っており、これらのことから大高坂城天主には既に瓦葺の建物が存在していた可能性もでてきた。その他、慶長期の盛土からも土師質土器や備前焼の遺物が出土しており、南北朝期から戦国時代この城を居城とした大高坂氏や国沢氏時代の遺物も出土している。

高知城絵図面のなかで、一番古いものが正保の城絵図である。この城絵図では、今回解体する石垣部分も描かれている。この部分を拡大して見てみると、黒鉄門よりやや小さめの門と石垣の上には矢狭間塀が描かれている。この小規模な門跡の明確な痕跡は今回の調査で確認できなかったが、門と矢狭間塀に付属した塀底遺構の礎石やその遺構を検出した。塀底とは、門付近の矢狭間塀に取りついた庇をもった門番が常駐できる半間×4間規模ぐらゐの建物と考えられている。この塀底は、正保の城絵図では描かれておらず、今回の調査で初めて確認された。最近では近世城郭の調査が盛んに行われているが、四国でも宇和島城跡の二の丸跡で塀底遺構が確認されている。

今回の石垣整備事業は、石垣の孕みが生じ危険なため実施されている。400年の歴史のなかで石垣も孕みが生じたものと考えられていた。しかし今回の石垣解体調査で、天保年間やその後の解体修理した部分が弱く孕んでいることがわかった。高知城本丸の特徴として、岩盤に密着させて石垣が築かれている部分が存在することである。この部分は裏ゴメ石が極端に少ないが、岩盤に密着して構築すると裏ゴメ石がなくとも頑丈で有ることも解明された。今回の調査で石垣の伝統技術の一端が解明されたわけであるが、現在この伝統技術を踏襲して、孕みを取り除き石垣の積み直しを実施している。



写真15 高知城跡石垣解体風景

## V 条例・規則・規程等

### 1. 高知県条例・規則

#### (1) 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成3年3月20日条例第3号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

#### (設置)

**第1条** 埋蔵文化財を発掘し、保存し、及び公開することにより、埋蔵文化財に対する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を南国市に設置する。

#### (管理の委託)

**第2条** 教育委員会は、センターの管理に関する業務を財団法人高知県文化財団に委託することができる。

#### (委任)

**第3条** この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 附則

この条例は、平成3年4月1日から施行する。

## (2) 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成3年3月26日教育委員会規則第5号)

改正

平成4年7月7日教育委員会規則第15号

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(趣旨)

**第1条** この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)第3条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)の管理について、必要な事項を定めるものとする。

(センターの利用)

**第2条** センターを利用しようとする者(第4条において「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(第4条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

(利用時間)

**第3条** センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 教育委員会は、前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、同項の利用時間を変更することができる。

(遵守事項)

**第4条** 利用者は次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(休所日)

**第5条** センターの休所日は、次に掲げるとおりとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休所日を設けることができる。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 1月2日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

(委任)

**第6条** この規則に定めるもののほか、センターの管理及び運営に必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附則(平成4年7月7日教育委員会規則第15号)

この規則は、平成4年7月18日から施行する。

## 2. 財団法人高知県文化財団規程

## (1) 財団法人高知県文化財団組織規程

## 第1章 総則

## (趣旨)

第1条 この規程は、財団法人高知県文化財団(以下「財団」という。)の組織に関し必要な事項を定め、財団事務の適切かつ効率的な執行を図ることを目的とする。

## (組織)

第2条 財団に事務局を置く。

2 事務局に、右の表に掲げる機関を置き、その内部組織として課を置く。

3 理事長は、必要があると認めるときは、課に班または係を置くことができる。

表31 高知県文化財団組織表

機 関	課 名
総 務 部	総 務 課
	企 画 課
美 術 館	事 業 課
	学 芸 課
歴 史 民 俗 資 料 館	事 業 課
	学 芸 課
埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー	総 務 課
	調 査 課
坂 本 龍 馬 記 念 館	
県 民 文 化 ホ ー ル	総 務 課
	業 務 課
文 学 館	事 業 課
	学 芸 課

## 第2章 職制

## (職員)

第3条 事務局には、次の職員を置く。

- (1) 事務職員 上司の命を受け事務をつかさどる。
- (2) 嘱託員 上司の命を受け特定の事務に従事する。  
ただし、次条第1項に掲げる職を命ぜられたときは、同項の規定による。

2 特に理事長が必要と認めるときは、臨時的任用職員及び非常勤職員を置くことができる。

3 前項の臨時的任用職員および非常勤職員の任用の取扱いについては、別に理事長が定めるもののほか、高知県の取扱いの例による。

## (等級・職と職務)

第4条 事務局に、次の表に掲げる等級・職をおき、当該職を命ぜられた者は、それぞれ上司の命を受けて、同表の職務の覧に掲げる職務に従事する。

2 美術館の自主事業の企画及び実施に関する高度の事務に従事し、当該事務に従事する職員を指揮監督するため、美術館にアートコーディネーターを置く。

## 第3章 事務分掌

## (総務部の事務分掌)

第5条 総務部の分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 理事会に関すること。
- (2) 寄附行為その他規定の制定及び改廃に関すること。
- (3) 財団の事業計画及び事業報告に関すること。
- (4) 財団の事業の総合調整に関すること。

表32 高知県文化財団職務分掌表

等級	職	職務
1	参 与	特に高度な芸術文化に関する専門的事項について総括的に指導助言する。
	部 長	部の事務を掌握し，所属職員を指揮監督する。
	館（所）長	館（所）の事務を掌握し，所属職員を指揮監督する。
2	副 館 長	館（所）長の事務を補佐し，所属職員を指揮監督する。
	次 長	
	課 長	課の事務を掌握し，所属職員を指揮監督する。
3	課 長	課の事務を掌握し，所属職員を指揮監督する。
	班 長	班の事務を掌握し，所属職員を指揮監督する。
	企 画 主 幹	企画に関する専門的事務に従事する。
	主 任	高度な事務又は専門的な事務に従事する。
	学芸専門員	
専門調査員		
4	係 長	係の事務を掌握し，所属職員を指揮監督する。
	主 幹	特定の事務又は専門的事務に従事する。
	主任学芸員	
	主任調査員	
5	主 査	知識，経験を必要とする事務又は専門的事務に従事する。
	学 芸 員	
	調 査 員	
6	主 事	事務又は専門的事務に従事する。
7	学 芸 員	
	調 査 員	

- (5) 財団の予算及び決算に関すること。
- (6) 文書及び公印に関すること。
- (7) 職員の人事，服務，給与及び福利厚生に関すること。
- (8) 財産の取得，管理及び処分に関すること。
- (9) 契約の締結に関すること。
- (10) 業務の受託及び委託に関すること。
- (11) 関係官公署との連絡調整に関すること。
- (12) 財団自主事業の企画・実施に関すること。
- (13) 文化情報の収集，提供に関すること。
- (14) 芸術文化の国際交流の推進に関すること。
- (15) 芸術文化の振興に関すること。
- (16) その他，他の館（所）の主管に属しないこと。

2 総務課及び企画課の分掌事務は，部長が定める。



(美術館の分掌事務)

第6条 美術館の分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立美術館の管理運営に関する事。
- (2) 館の予算及び決算に関する事。
- (3) 館の文書及び公印に関する事。
- (4) 館の職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 美術の調査研究に関する事。
- (6) 美術の普及教育に関する事。

2 事業課及び学芸課の分掌事務は、館長が定める。

(歴史民俗資料館の分掌事務)

第7条 歴史民俗資料館の分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立歴史民俗資料館の管理運営に関する事。
- (2) 館の予算及び決算に関する事。
- (3) 館の文書及び公印に関する事。
- (4) 館の職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 歴史、考古、民俗の分野の調査研究に関する事。
- (6) 普及教育に関する事。

2 事業課及び学芸課の分掌事務は、館長が定める。

(埋蔵文化財センターの分掌事務)

第8条 埋蔵文化財センターの分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立埋蔵文化財センターの管理運営に関する事。
- (2) 埋蔵文化財の発掘事業に関する事。
- (3) 所の予算及び決算に関する事。
- (4) 所の文書及び公印に関する事。
- (5) 所の職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (6) 埋蔵文化財の調査研究に関する事。
- (7) 埋蔵文化財の整理保存に関する事。
- (8) 普及教育に関する事。

2 総務課及び調査課の分掌事務は、所長が定める。

(坂本龍馬記念館の分掌事務)

第9条 坂本龍馬記念館の分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立坂本龍馬記念館の管理運営に関する事。
- (2) 館の予算及び決算に関する事。
- (3) 館の文書及び公印に関する事。
- (4) 館の職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 坂本龍馬などの調査研究に関する事。

(6) 普及教育に関すること。

(県民文化ホールの分掌事務)

**第10条** 県民文化ホールの分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立県民文化ホールの管理運営に関すること。
- (2) 館の予算及び決算に関すること。
- (3) 館の文書及び公印に関すること。
- (4) 館の職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) ホールの自主事業の企画・実施に関すること。

2 総務課及び業務課の分掌事務は、館長が定める。

(文学館の分掌事務)

**第11条** 文学館の分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立文学館の管理運営に関すること。
- (2) 館の予算及び決算に関すること。
- (3) 館の文書及び公印に関すること。
- (4) 館の職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 文学資料等の調査研究に関すること。
- (6) 普及教育に関すること。

2 事業課及び学芸課の分掌事務は、館長が定める。

## 第4章 雑則

(委任)

**第12条** この規程に定めるもののほか、財団の組織について必要な事項は、理事長が定める。

附則

1 この規程は、平成3年4月1日から施行する。

2 財団法人高知県文化財団組織規程(平成2年4月1日制定)は、廃止する。

附則

この規程は、平成3年7月1日から施行する。

附則

この規程は、平成3年9月6日から施行する。

附則

この規程は、平成3年11月15日から施行する。

附則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

## (2) 財団法人高知県文化財団寄附行為

### 第1章 総則

#### (名称)

第1条 この法人は、財団法人高知県文化財団という。

#### (事務所)

第2条 この法人は、事務所を高知市高須353番地2に置く。

#### (目的)

第3条 この法人は、芸術文化の振興及び文化財産等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、もって県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とする。

#### (事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- (2) 委託を受けた芸術文化施設の管理運営
- (3) 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- (4) 教育、学術及び文化の国際交流事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 第2章 資産及び会計

#### (資産の構成)

第5条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された財産
- (2) 資産から生ずる収入
- (3) 事業に伴う収入
- (4) 寄附行為
- (5) その他の収入

#### (資産の種別)

第6条 資産は、基本財産及び運用財産とする。

2 基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産
- (2) 基本財産とすることを指定して寄附された財産
- (3) 理事会で基本財産に繰り入れることを議決された財産

3 運用財産は、基本財産以外の財産とする。

#### (基本財産の処分)

第7条 基本財産は、これを処分し、又は担保に供することができない。ただし、やむを得ない理由があるときは、理事会において理事の4分の3以上の同意を得、かつ高知県教育委員会の承諾を得て、その一部を処分し、又はその全部若しくは一部を担保に供することができる。

(資産の管理)

第8条 資産は、理事長が管理し、基本財産のうち現金は、理事長の議決を得て定期とする等確実な方法により、理事長が保管する。

(経費の支弁)

第9条 この法人の経費は、運用財産をもって支弁する。

(予算及び決算)

第10条 この法人の収支予算は、年度開始前に理事会の議決により定め、収支決算は年度終了後2月以内にその年度末の財産目録と共に監事の監査を経て理事会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第11条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(基金)

第12条 この法人に、県民の自主的な芸術文化活動その他県民文化の振興に資する事業に対する援助及び顕彰等を目的として、県民文化振興基金(以下「基金」という。)を設けることができる。

2 基金の設置及び管理、処分その他基金に関し必要な事項は、理事会の議決を経て理事長が別に定める。

### 第3章 役員及び職員

(種別及び選任)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事長 1人
- (2) 副理事長 2人以内
- (3) 専務理事 1人
- (4) 理事 6人以上15人以内(理事長、副理事長及び専務理事を含む。)
- (5) 監事 2人以内

2 理事長は、高知県知事の推薦する者をもって充てる。

3 理事及び監事は、理事長が選任する。

4 副理事長及び専務理事は、理事会の承認を得て、理事のうちから理事長が選任する。

5 理事及び監事は相互に兼ねることができない。

(役員の職務)

第14条 理事長は、この法人を代表し、業務を統括する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき、又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ理事会の議決を経て定めた順序により、その職務を代行する。

3 専務理事は、理事長及び副理事長を補佐し、日常の業務を執行する。

4 理事は、理事会を構成し、業務の執行を決定する。

5 監事は、民法(明治29年法律第89号)第59条の職務を行う。

#### (役員任期)

第15条 役員任期は2年とする。ただし、補欠役員任期は前任者の残任期間とする。

2 役員は、再任させることができる。

3 役員は、辞任し、又は任期が満了した場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

#### (役員解任)

第16条 役員は、役員としてふさわしくない行為があったときは、理事会において理事の4分の3以上の同意により解任することができる。

2 前項の規定により役員解任しようとするときは、その役員にあらかじめ通知すると共に、当該役員に解任の議決を行う理事会において弁明の機会を与えなければならない。

#### (役員報酬)

第17条 役員は、理事会で定めるところにより、有給とすることができる。

#### (顧問)

第18条 この法人に顧問を置くことができる。

2 顧問は、理事長が委嘱する。

3 顧問は、この法人の運営に係る事項について、理事長に意見を述べ、又は助言することができる。

#### (職員)

第19条 この法人の業務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局には、総務部長その他必要な職員を置く。

3 総務部長その他の職員は、理事長が任命する。

4 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

### 第4章 理事会

#### (構成)

第20条 理事会は、理事をもって構成する。

#### (機能)

第21条 理事会は、この寄附行為に定めるもののほか、次の各号に掲げる事項を議決する。

(1) 事業計画に関すること。

(2) 事業報告に関すること。

(3) その他この法人の運営に係る重要事項に関すること。

#### (召集)

第22条 理事会は、理事長が召集する。

2 理事の3分の1以上又は監事から会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長は、14日以内に理事会を召集しなければならない。

3 理事会を召集するには、理事に対し、会議の目的たる事項及びその内容、日時並びに場所を示してあらかじめ書面をもって通知しなければならない。

(議長)

第23条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第24条 理事会は、理事の3分の2以上の出席がなければ、開会することができない。

(議決)

第25条 理事会の議事は、この寄附行為に別に定めるもののほか、出席理事の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面表決等)

第26条 やむを得ない理由により、会議に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の理事を代理人として表決を委任することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号の規定の適用については、出席したものとみなす。

(議事録)

第27条 理事会の議事については、次の各号に掲げる事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 会議の日時及び場所

(2) 理事の現在数

(3) 会議に出席した理事の氏名

(4) 議決事項

(5) 議事の経過

2 議事録には、出席理事の中から、その会議において選出された議事録署名人2人以上が、議長とともに署名押印しなければならない。

## 第5章 寄附行為の変更及び解散

(寄附行為の変更)

第28条 寄付行為は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得、かつ、高知県教育委員会の許可を得なければ変更することができない。

(解散及び残余財産の処分)

第29条 この法人は、民法第68条第1項第2号から第4号までの規定によるほか、理事会において理事の4分の3以上の同意を得、かつ、高知県教育委員会の許可があったときに解散する。

2 解散のときに存する残余財産は、理事会の議決を経、かつ、高知県教育委員会の許可を得て、国若しくは地方公共団体又はこの法人と類似の目的をもつ公共的団体に寄附するものとする。

## 第6章 雑則

(委任)

第30条 この寄附行為の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附則

- 1 この寄附行為は、高知県教育委員会の許可のあった日から施行する。
- 2 この法人の設立年度の事業計画及び収支予算は、第10条及び第21条の規定に関わらず、設立者の定めるところによる。
- 3 この法人の設立当初の事業年度は、第11条の規定にかかわらず、設立許可のあった日から平成3年3月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の役員については、第13条の規定にかかわらず、別表のとおりとし、その任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、平成4年3月31日までとする。

附則

この寄附行為は、平成5年4月1日から施行する。



高知県埋蔵文化財センター年報

第12号

2002年度

発行日 平成15年6月30日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉1437-1

TEL088-864-0671

印刷 (有)西村謄写堂